

平成30年度（2018年度）

事業報告書

自 平成30年（2018年）4月 1日

至 平成31年（2019年）3月31日

<本編>

I. 法人の概要	1
II. 事業の概要	9
1. 全体概要	9
2. 森ノ宮医療大学	14
3. 森ノ宮医療学園専門学校	38
4. 森ノ宮医療学園附属診療所	47
5. 森ノ宮医療学園出版部	58
6. 森ノ宮医療学園京都施術所	64
III. 財務の概要	66

学校法人森ノ宮医療学園

大阪市東成区中本4丁目1番8号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成した。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

昭和48年(1973)	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校(大阪市東成区)
昭和52年(1977)	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年(1982)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年(1985)	4月	卒業教育雑誌「鍼灸OSAKA」創刊
昭和63年(1988)	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年(1991)	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicineと教育提携を結ぶ
平成4年(1992)	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年(1995)	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与
平成8年(1996)	6月	中国江蘇省陰市中医院と交流開始
平成12年(2000)	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001)	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
平成14年(2002)	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
平成15年(2003)	3月	柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎(第1期)完成
平成16年(2004)	3月	中国江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結
平成17年(2005)	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年(2007)	4月	森ノ宮医療大学開学(大阪市住之江区)
平成20年(2008)	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成22年(2010)	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと括連携協定締結
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェ(学生食堂)オープン
平成23年(2011)	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟(ウエストポート)竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
平成24年(2012)	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
平成25年(2013)	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定

平成26年(2014)	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結
平成26年(2014)	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結
平成26年(2014)	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結
平成27年(2015)	2月	相愛大学と包括連携協定締結
平成28年(2016)	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結
平成28年(2016)	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設。保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科を開設
平成28年(2016)	5月	森ノ宮医療大学新棟(チャンネルポート)竣工、新体育館、新図書館併設
	6月	森ノ宮医療大学講堂(コスモホール)竣工
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン(FCIM)と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行
	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地(大学設置基準上の空地)購入
平成29年(2017)	4月	森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	11月	森ノ宮医療学園 京都施術所(ERP下鴨南治療院)開業
	12月	森ノ宮医療大学 西校地南側を運動施設(グリーンスクエア)に整備
平成30年(2018)	1月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本生命済生会附属日生病院(現:日本生命病院)と相互連携協定締結
	3月	森ノ宮医療大学 オーストラリア、カーティン大学(Curtin University)と連携協定締結
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結
平成31年(2019)	2月	森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
	森ノ宮 医療大学	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課程)	2	6	0	12	開設年度 平成23年度
		大学院保健医療学研究科 医療科学専攻(博士後期課程)	3	2	0	6	開設年度 平成30年度
		保健医療学部鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年度
		保健医療学部理学療法学科	4	70	0	280	
		保健医療学部看護学科	4	90	0	360	開設年度 平成23年度
		保健医療学部臨床検査学科	4	60	0	240	開設年度 平成28年度
		保健医療学部作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年度
		保健医療学部臨床工学科	4	60	0	240	開設年度 平成30年度
		助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年
森ノ宮 医療学園 専門学校	医療専門課程鍼灸学科	3	120	0	450	開設年度 昭和48年	
	医療専門課程柔道整復学科	3	120	0	420	開設年度 平成12年	

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積 m ²	校舎現有面積 m ²	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	32,936.65	7,193.15 (東棟)	平成28年度に南棟(11,102.79 m ²)完成、平成28年12月西側隣接地(16,941.41 m ²)購入 平成30年4月に国際交流センターおよびランゲージスクール(673.31 m ²)完成 平成30年9月にスポーツ施設管理事務所(30.64 m ²)完成
		603.63 (食堂棟)	
		4,523.74 (西棟)	
		10,940.87 (南棟)	
		30.64 (スポーツ施設管理事務所)	
		673.31 (国際交流センターおよびランゲージスクール)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	23,965.34	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校(大阪市東成区中本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
大学・専門学校 合計	36,176.83	31,609.94	

5. 役員の概要

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

・定員数：理事 8～12 名、監事 2 名 ・現員数：理事 12 名、監事 2 名

役職	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成 22 年 11 月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	荻原俊男	平成 23 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	花谷幸比古	平成 9 年 5 月	7-1-2	
理事	三木完二	平成 9 年 5 月	7-1-2	
理事	尾崎朋文	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	森優也	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	小島賢久	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	安田実	平成 11 年 5 月	7-1-3	
理事	中田敬吾	平成 14 年 5 月	7-1-3	
理事	吉川徹	平成 25 年 7 月	7-1-3	
理事	金尾顕郎	平成 27 年 4 月	7-1-3	
理事	青木元邦	平成 27 年 4 月	7-1-3	
監事	日根野文三	平成 11 年 5 月		
監事	小林由幸	平成 14 年 10 月		

6. 評議員の概要

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

・定員数 17～25 名 ・現員数：25 名

氏名	寄附行為上の選任区分
田畑京美	25-1-1
山下 仁	25-1-1
村上生美	25-1-1
鍋田智之	25-1-1
青木元邦	25-1-1
吉岡敏治	25-1-1
三木屋良輔	25-1-1
松下美穂	25-1-1
花谷幸比古	25-1-2
三木完二	25-1-2
房前素徳	25-1-2
浜田 暁	25-1-2

清水尚道	25-1-2
尾崎朋文	25-1-2
奥田 功	25-1-3
河内 明	25-1-3
鈴木 紘	25-1-3
下條喜信	25-1-3
築山房乃	25-1-3
森 優也	25-1-3
小島賢久	25-1-3
葉山直史	25-1-3
鈴木 信	25-1-3
中田 一	25-1-3
赤丸敏行	25-1-3

7. 教職員の概要

(令和元年5月1日現在)

●専門学校・診療所

区分	人数
本務教員	26
本務職員	25
診療所本務職員	17
合計	68

(法人本部所属者含む)

●大学

区分	人数
本務教員	118
本務職員	45
合計	163

(法人本部所属者含む)

8. その他

●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	公益社団法人 私学経営研究会	法	法人本部	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	法人本部	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務室	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務室	
7	日本私立大学協会	大	総務室	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務室	
9	西日本私立大学振興協議会	大	経営企画室	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務室	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務室	
12	一般財団法人 全国私立大学教職課程協会	大	教務室	
13	阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会	大	教務室	
14	広域大学連携事業	大	教務室	
15	関西地区FD連絡協議会	大	経営企画室	
16	関西学生就職指導研究会	大	学生支援室	
17	実験動物施設協議会	大	事務局	
18	関西生産性本部	大	事務局	
19	学校経営品質向上研究会	大	事務局	
20	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	
21	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	鍼灸関係
22	公益社団法人 全日本鍼灸学会	共/大関	鍼灸学科	
23	公益社団法人 全日本鍼灸師会	大	鍼灸学科	

24	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	大	鍼灸学科	
25	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	
26	鍼灸学系大学協議会	大	鍼灸学科	
27	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	理学療法 作業療法 関係
28	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
29	一般社団法人 日本私立看護系大学協会	大	看護学科	
30	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	
31	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科 助産学専攻科	看護関係
32	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
33	公益財団法人大阪府看護協会	大	看護学科	
34	一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会	大	臨床検査学科	臨床検査 関係
35	一般社団法人大阪府臨床工学技士会	大	臨床工学科	臨床工学 関係
36	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専	柔道整復学科	柔道整復 関係
37	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専/大関	柔道整復学科	
38	私立大学図書館協会	大	図書館	
39	日本看護図書館協会	大	図書館	図書館 関係
40	一般社団法人 日本温泉気候物理学会	大	図書館	
41	経絡治療学会	大	図書館	
42	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	
43	東成防火協力会	専	事務局	
44	東成防犯協会	専	事務局	
45	中本連合中本第一町会	専	事務局	広報関係 地域関連
46	中本社会福祉協議会	専	事務局	
47	コスモスクエア地区開発協議会	大	経営企画室	
48	大阪商工会議所	大	事務局	
49	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
50	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
51	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	

●主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22. 4. 6	地方独立行政法人大阪病院機構 大阪急性期・総合医療センター	相互連携	2017/4/1 大阪府立急性 期・総合医療センターから 改称
H23. 7. 11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23. 12. 9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25. 5. 27	公益財団法人田附興風会医学研究 所 北野病院	相互連携	
H26. 1. 9	大阪府住之江区	包括連携	
H26. 1. 15	医療法人協和会	相互連携	
H26. 6. 3	高槻市教育委員会	連携協定	教育委員会
H26. 11. 19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学 部との連携
H26. 11. 25	吹田市教育委員会	連携協定	教育委員会
H27. 2. 19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27. 3. 9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27. 4. 15	大阪市教育委員会		
H27. 7. 27	守口市教育委員会	連携協定	教育委員会
H28. 1. 29	社会福祉法人帝塚山福祉会	相互連携	
H28. 6. 13	地方独立行政法人大阪府立病院機 構 大阪国際がんセンター	相互連携	2017/4/1 大阪府立成人病 センターから改称
H28. 8. 22	学校法人常翔学園		スタッフディベロップメン トにおける大学間連携
H29. 2. 24	社会医療法人純幸会 関西メディ カル病院	相互連携	
H29. 10. 5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学 部との連携
H30. 1. 18	放送大学	単位互換	
H30. 1. 26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	2018/4/30 日生病院から改 称
H30. 4. 19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、地 域への社会貢献活動 等
H30. 5. 1	ヒューマンプランニング株式会社 (大阪エヴェッサ)	相互連携	選手サポート、学生向け講 演、施設有効利用
H30. 11. 1	近畿大学病院	相互連携	
H30. 12. 3	大阪重粒子センター	相互連携	

II. 事業の概要

1. 全体概要

(1) 部門別概要

「学校法人森ノ宮医療学園」

1. 本学園では、年度ごとの事業計画と予算は、前年度11月に各部門・各部署で原案を策定し、理事長および理事者によるヒアリングを通じて学園全体のとりまとめを行ったうえで3月の評議員会に予め諮問の上、理事会で承認を受け、さらに、当年度の5月に成果報告会を開催し、理事長や理事者に対して前年度の成果や実績を報告するとともに、当年度計画の修正を行う機会を設けているが、平成30年度においてもこれらを継続して実施した。また、平成30年度は、第1期中期経営計画（平成26年度～平成30年度）の最終年度に当たることから、中期計画目標の達成に向けた施策を着実に実行した。
2. 平成26年度から人事制度改革に着手しており、森ノ宮医療大学（以下、「大学」と表記）の教職員と森ノ宮医療学園専門学校（以下、「専門学校」と表記）の教職員に対し、目標管理制度の導入を順次進め、平成28年度に導入を完了している。平成30年度は、新たに職位・職能の定義を刷新し定着を進めるとともに、理事者による人事面談を試行した。今後、制度の問題点抽出と、より実効性・効率性が確保できる制度改変を進めていく予定である。
3. 外部臨床実習施設としても使用可能であり、鍼灸施術と柔道整復施術を行う「京都施術所」（名称：ERP下鴨南治療院）を11月9日に開業した。同施術所については、「医療・福祉」を付随事業に追加する寄附行為変更の認可の後、付随事業として開業するに至った。将来的には専門学校の柔道整復学科外部臨床実習施設としても計画予定である。
4. 将来のさらなる少子高齢化を見据え、学園の「建学の精神」や社会貢献の観点から、介護に携わる外国人等の人材育成事業を2段階に分けて事業展開することを機関決定し、第1段階として、森ノ宮ランゲージスクール（仮称）を平成31年度に開校することを計画し、平成30年には、大阪府から各種学校として認可された。

「森ノ宮医療大学」

5. 平成30年4月に開設した保健医療学部「臨床工学科」と大学院「保健医療学研究科医療科学専攻博士後期課程」に関して学科および専攻を追加する寄附行為変更の届出を行った。
6. 受動喫煙を防止する為の法律（健康増進法第25条）の施行に伴い、4月1日に学生および教職員の禁煙宣言を行った。
7. 森ノ宮医療大学教育後援会および平成30年度卒業生一同から桜の木が寄贈され、大学のチャナールポートと運河間の法面への植樹を行った。
8. 学科増設等に対応した人材供給を確保するため、昨年度に引き続き新卒者採用を予定し、学生向け説明会を5月に実施した。書類選考から採用面接を経て採用を決定し、10月に内定式を挙行了。

9. 関西鍼灸系大学間連携 4 大学が共同開催する「合同就職説明会」が本学の体育館で開催された。鍼灸・整骨院をはじめ、医療施設や一般企業、大学院・専門学校など約 70 施設を招き、各大学の鍼灸学科や柔道整復学科の学生が参加した。
10. 平成 32 年度開設を計画している診療放射線学科（仮称）用の校舎について建設計画を策定し建設会社を選定し、基本構想・企画設計を 3 月末で終了した。今後は基本設計・実施設計へと進み、平成 31 年 1 月から工事に着手、竣工は平成 32 年 1 月を予定している。
11. 平成 28 年度に購入した大学西側校地南側土地では、大学の授業や部活動に活用できる運動施設として、人工芝や照明を備えたフットサルコートのほか、ランニングコースや多目的クレグラウンドなどを整備し、「グリーンスクエア」と命名した。地域の住民や団体（保育園・リハビリ施設等）においても積極的な利用が定着している。
12. 平成 30 年 4 月に開設する臨床工学科の学生教育に対応すべく、キャナルポート 3F・5F・6F 各フロアの改修整備に着手し、人工心肺装置や手術室内設備機器機器を配備した実習施設等を増設した。
13. 関西鍼灸系大学間連携 4 大学主催 FD 研修会を担当校として本学で開催した。
14. 平成 30 年度から稼働予定である国際交流センター・森ノ宮医療学園ランゲージスクールが使用する鉄骨造スレート葺き 2 階建て校舎（673.31 m²）が竣工した。

「森ノ宮医療学園専門学校」

15. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゆう師に係る学校養成施設認定規則」ならびに「柔道整復師学校養成施設指定規則」の一部改正と養成施設指導要領（ガイドライン）の一部改正に対応した新たなカリキュラムを開始した。総授業時間数の増加や新科目の追加、臨床実習の単位数増などが主な変更点であり、特に授業時間の増加数が多かった柔道整復学科については、昼間コースは 3 限目を、夜間コースは土曜授業を、それぞれ 2 年次から実施することとした。
16. 両学科において今年度から各期の定期試験終了後に授業内容を振り返るための期間を設けることとした。定期試験で躓いてしまった内容をきちんと復習し理解する機会ともなっており、特に基礎的知識の定着に大きな効果が見られている。
17. 鍼灸学科においては平成 30 年度入学生より、従来は定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。それでもなお不合格の場合は年度末に実施される未修得単位試験に合格できなかった場合のみ留年とすることとした。一見試験が増えて学生の負担が増える様には見えるがそうではなく、むしろ複数回の復習の機会により理解不足を解消することができており、学修すべき内容をきちんと理解したうえで進級できるようになっている。実際に平成 30 年度においては留年者が発生せず、複数の試験により成績不振者の学修進度もこれまで以上に把握することができるようになっている。
18. 2018 年 10 月 14 日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院 65 院、卒業生を含む参加学生 70 名であった。内容のある面談を行う事ができて良かったとの声が聴かれ、好評であった。
19. 2018 年 7 月 23 日に大阪市東成区と包括連携協定を調印した。森ノ宮医療大学の所在地である住之江区との協定に続く調印となった。
20. 2019 年 2 月 10 日、11 日の両日、本校主管の柔道整復師臨床実習指導者講習会を開催した。一定の条件を満たした柔道整復師が本講習会を受講することにより柔道整復師臨床実習におけるいわゆる外部実習での指導が可能となる。東洋療法学校協会が主催する鍼灸師臨床実習とは異なり基本的には各会員校が開催主管であり、開催にあつ

ての業務も一層多岐に渡っている中、滞りなく開催することができたことは大きな自信となった。

21. 例年全国柔道整復学校協会が開催している専科教員認定講習会の大分会場の主管校を務めた。西日本各地から参集した 30 名の受講生を迎え、平成医療学園専門学校、明治東洋医学院専門学校を協力校として、6 月から 10 月にかけての土曜および日曜、祝日の開講であった。
22. 学園理事長および本校校長の清水尚道が会員校 174 校からなる一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会の理事長に就任した。

(2) 主要事業

① 診療放射線学科/大学院看護学専攻開設準備 (大学)

2020 年 4 月に本学保健医療学部診療放射線学科を新設することで、大学の目的として掲げるチーム医療の教育をより充実させるとともに、広く社会に貢献できる医療人の育成を通して、さらなる保健医療分野の発展に寄与することを目指す。それに加え、保健医療学の高度専門職業人の育成を行ってきた本学大学院の保健医療学専攻(修士課程)とともに、看護の専門性を考えて看護領域に特化した高度専門職業人の育成を行うため、2020 年 4 月に看護学専攻(修士課程)設置を目指し、各種申請準備を行った。

② 新棟建設準備 (大学)

2020 年 4 月の診療放射線学科(仮称)開設を目指し、2019 年 1 月から北西校地に地上 5 階建ての新たな校舎を建設し、2020 年 4 月からの運用開始を予定している。校舎のコンセプトは「学生の視点に配慮した、学生が集う、自慢できる学び舎」として、診療放射線学科(仮称)用の画像診断機器(MR I・CT等)を設置した実習室、教室、研究室および看護学科用の教室やコミュニケーションラウンジ等を機能的に配置し、周辺環境にも配慮した外観や 2 階には 250 名が収容できるカフェを併設するなど、本学のキャンパス・アメニティの中心になる校舎を目指している。なお、設計・施工は清水建設株式会社に依頼し、2020 年 1 月の竣工予定である。

③ 国際交流センター設置（大学）

グローバル人材育成のために官民協働で「大学生の海外留学 12 万人計画」が進んでおり、本学においても国際交流センターを設置し、グローバルな視点を持つ医療人を育成する医療大学として、TOEIC 講座や英会話講座を実施し、大学および学園として、韓国の Sahmyook 大学や梅香女子情報高等学校と連携協定を締結した。締結後すぐに、梅香女子情報高等学校を迎え、本学園ランゲージスクールにて日本語教育の提供や大学の学生・教員との交流も行なった。

また、2016 年度から継続している海外短期研修会では、オーストラリアのシドニー大学や現地医療施設見学を実施した。また、JICA(国際協力機構)等の外部事業のサポートを通じて、グローバルな人材の育成に寄与している。

④ 教職支援センターの設置（大学）

本センターは、教職課程を有している鍼灸学科及び看護学科の教職に関する業務の集約化を図り、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等、教職を志望する学生の支援を目的として設置した。

さらに、医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、各種ガイダンスの実施、教員採用試験対策講座等の実施、学校現場体験として学校ボランティアの紹介などに取り組み、教職事務の集約化を図り、教育実習等の調整ならびに教員免許申請や再課程認定申請業務にも携わった。

⑤ 募集力の強化（専門学校）

受験生ニーズに対応するため、入試制度の改革を行い、より出願しやすい環境を整えた。具体的には、新入試制度（公募推薦入試）、入試名称の変更、受験料免除制度、早期合格者の特典、学納金納入延納制度を導入し、受験生確保に努めた。また、学生募集イベントの改善も図った。個々のニーズに対応するため、オープンキャンパス以外に、学校説明会や個別相談会を休日に開催したほか、平日の個別相談会を曜日固定で毎週実施した。この結果、来校者数（イベント参加者数）は昨年度を大きく上回る数字となった。また、学生募集グループ（現：入学センター）、広報課、鍼灸学科、柔道整復学科、入試運営担当が連携し、学生募集活動における学校全体での協力体制の強化を図った。

⑥ 日本語学校開設準備（法人本部）

介護の技能実習生や在留資格に「介護（の分野）」が認められ、高齢者施設において外国人労働者がさらに増えようとしている。外国人に対する介護分野の教育は、さらなる充実と基盤の強化が要請されていくことになる。本学園では、日本語教育と介護福祉士養成教育を一貫で行い、外国人介護福祉士養成教育システムを構築す

る予定である。このシステムによって、優秀な外国人介護福祉士を養成し、施設の利用者、スタッフに貢献することを目指す。2018年度は日本語学校の設置申請を行い、大阪府知事から各種学校として認可された。

⑦ 第2期中期計画策定（法人本部）

2014年度から2018年度の第1期中期計画の策定と実施に引き続き、計画期間を2019年度から2023年度とする第2期中期計画を策定した。「平成30年度までに関西圏の医療系大学・専門学校の中でトップクラスになる」という基本目標をほぼ達成した第1期中期計画の成果や課題を引き継ぎつつ、超少子高齢化、18歳人口の減少、AIの進展等々の社会経済環境に対応し、2023年度には「関西圏トップ」になることを基本目標と位置付けるとともに、年間事業規模に匹敵する投資を支えるための慎重な財政運用と、理念・建学の精神・目標の達成を進めていく。

2. 森ノ宮医療大学

(1) 実施事業の概要

① 教育研究機関としての充実による大学ブランディング強化

平成 29 年度に引き続き、平成 30 年度も、医療系総合大学としての拡充・認知度向上・ブランディングを目指し、また、関西圏の医療職養成大学群内でのプレゼンスを高めるため、教育研究環境のさらなる充実に取り組んだ。

平成 28 年度設置の作業療法学科・臨床検査学科・助産学専攻科、および平成 29 年度設置の臨床工学科および大学院博士後期課程は、平成 30 年度も募集・教育・運営のいずれも順調に推移した。1 学部 6 学科と 1 研究科 1 専攻科を擁する医療系総合大学として認知度は確実に上昇しているがさらなる拡充を継続させるため、診療放射線学科・大学院看護学専攻（修士課程）の 2020 年度設置を予定し、開設準備を行った。また、教員職員免許法及び施行規則の改正を受け、認定・指定を受けている本学教職課程の再課程申請が認定された。

本学では平成 27 年度より「チーム医療実践力」を医学教育の根幹に置き、平成 30 年度も継続して「医療系総合大学だからこそ実践できるチーム医療教育」により大学ブランディングの強化を図った。IPW (Inter-professional Work) 関連科目の充実を目的として、教職協同による企画立案とプロジェクト運営を継続し、さらなる IPE (Interprofessional education) の充実を目的として、IPW ワーキンググループと協働し、2020 年度から低学年からのチーム医療に関する積み上げ教育を立案した。チーム医療教育関連座学の各学年での配置、および連携病院と協働した、全学科対象チーム医療見学実習 (Early exposure) (大阪急性期総合医療センター・国際がんセンター・日本生命病院・関西メディカル病院) を計画しており、より医療現場を体感し、チーム医療を実感する教育内容へと進化する予定である。様々な医療現場のニーズおよび社会的ニーズにマッチした「チーム医療」のコンセプトと、それを可能にする「医療系総合大学」の打ち出しはほぼ定着したと考えられ、さらなる深化により大学の質の向上・募集力アップに繋げたい。今年度も偏差値の上昇が継続しており、主要受験者層の上方シフト・国公立や上位競合校との併願の増加から、認知度・ブランド力は確実に向上していると思われる。さらに 30 年度は、大阪重粒子センター・近畿大学医学部附属病院との相互連携協定を締結し、医療系大学としての充実を図った。

教育力向上のため、学生授業アンケート・公開授業・ルーブリックによる評価の可視化等を継続した。学生に理解しやすい教育プログラム提供に重点を置き、主体的学修姿勢の醸成にも取り組んだ。教育水準の向上を図り、さらには学科ごとの緻密な国家試験対策により、看護学科・理学療法学科・助産専攻科では国家試験合格率 100%を達成した。鍼灸学科においても昨年度合格率を大幅に上回った。

学生支援においては、学修面では学修支援センター・学科担任・チューターが、健康面・メンタルヘルス・隣地実習関連健康管理では健康管理センターが、その他学生生活・就職関連では学生支援センターがきめ細やかにサポートしている。緻密なサポート体制は本学の大きな特徴でもあり、学生満足度に寄与するものである。平成 31 年度からは就職支援を強化するために、キャリアセンターを構想しており、その準備も行った。

また、研究力によるブランディング構築を図るため、研究支援センターが中心となり積極的な研究推進に努めた。研究業績の外部発信・外部研究資金獲得は順調に推移しており、特に文部科学省科学研究費助成事業（科研費）獲得では、関西圏医療系大学において上位に位置している。研究力の積極的な外部発信が大学

のブランディング強化・学科の魅力発信・募集力向上に繋がるものとする。さらに、31年度からは大学全体で取り組む戦略的研究を予定しておりその準備を行った。

② 学生支援サービスの強化

学生の生活環境さらなる充実のため、女子更衣室にパウダールームを設置し、学生休息スペースの拡充を行った。また、スポーツ活動施設(グリーンスクエア)の管理運営を円滑にするため管理棟建設を行い、周辺の整備も行った。

学修環境の向上については、附属図書館の日曜日開館を行い、大学全校舎の学生用パソコンの整備も行った。

学生支援体制の強化については、学生の大学に対する履修登録不備申請等の各種申請手続きをWEB化し、学生の利便性向上と省力化を図ると共に健康管理センターと学生支援室が連携し、健康に関する相談の充実と学納金に関する相談体制の強化を図った。

就職の支援については、低学年時からのキャリア教育を行うと共にキャリアガイダンスの実施回数増、キャリアカウンセラー増員によるキャリア相談体制の強化、就職担当者以外の教職員の協力を得て、面接試験を想定した模擬面接を実施するなど、就職支援の強化を行った。

③ 募集戦略

2018年度の学生募集活動は、これまでの方針を踏襲し、本学の特徴である「チーム医療教育」を前面に打ち出した広報展開で、ブランディング強化を図った結果、本学への資料請求、イベント参加者、WEBサイトアクセス数ともに前年を上回る、順調な推移を辿った。一方、志願者数(学部生募集)については、前年の高倍率等の影響もあり、昨年とほぼ同様の志願者数を確保できている。

また、これまでの紙媒体による出願方法から、WEB出願システムを導入し、受験料収納を従来の銀行振り込みから、コンビニ決済やクレジットカード決済に変更することで出願利便性の向上を図った。

④ 地域連携の強化

大学の地域貢献が求められる中、2018年度も地域の健康増進を目的に市民公開講座を開催し、地域の多くの方に参加頂いた。また、看護・理学・作業の3学科の教員が中心となって、南港ポータウン(太陽のまち)における高齢者支援活動を計画し、令和元年5月から月1回程度、「もりもりまちの保健室」と名づけた高齢者向け健康相談活動をスタートさせる。

また、大学と地域の交流や研究協力体制の構築のため、「ミズノ株式会社」をはじめとする企業との連携や「大阪重粒子センター」ならびに「近畿大学医学部附属病院」と相互連携協定を締結すると共に「大学コンソーシアム大阪」を母体とする「大阪府地域連携プラットフォーム」に参画した。

⑤ 各部署の取り組み

【看護学科】

看護学科において取り組んだ主な事業は、国家試験対策の強化、教育内容の充実、教員の充実した活動、大学院(看護学専攻)の開設の準備と設置申請業務であった。国家試験対策については、とくに4年次前期より必修問題の学習に力を入れ、卒業研究担当教員やチューターが担当学生の指導に当たった。模擬試験の成績が下位20%の学生は強化クラスとして補講を行い、その中でも下位の数名は特訓クラスとして個別対応を行った。教育内容の充実については、今年度より、看護学科における教育目的を達成するための合理的な教育グループのあり方を考えるという目的のもと領域の再編成を行い、従来の9領域体制(基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・

精神・在宅・公衆衛生) から、5 領域体制 (基礎・在宅看護学領域、成人・老年看護学領域、公衆衛生・精神看護学領域、母性・小児・助産学専攻科領域、基礎教育) に編成した。これにより、教員間のコミュニケーションが豊かになり、教育・研究等に関する視野が拡大した。またコミュニケーションによりこれまで他領域であった教育内容・研究等の活動が理解でき、相互関係が深まり、お互いの助け合いができた。カリキュラムや教育方法の検討に繋がった。代表者会議がよりよく機能 (議論の活性化、意思決定の速さ等) することができた。さらに、今年度より 4 年次後期に臨床看護技術セミナーが開講し、教員・学生全体がディプロマポリシーを認識して取り組んだ。学生のディプロマポリシーの到達状況を教員全体が把握することができ、今後の学生の教育の質向上に取り組む姿勢が生まれた。また学科全体で取り組む研究活動にも着手し、教育および研究の充実に向けて意識づけができた。(学科長：吉村)

【理学療法学科】

2018 年度国家試験において現役生の 100%合格を達成した。今後さらに成績を底上げする早期からの教育指導・システムの改善を目指す。2018 年度の 4 年間卒業率については 85.7%で、目標とした 95%を達成できなかったものの、留年なく国家試験に合格した学生は 85.7%と本学科過去最高を記録しており、学科教育力の向上が示唆される。就職率は 100%であったが、連携先病院への就職がやや不十分であった。今年度初めて OSCE を開始し、さらなる臨床教育の充実度を図った。指定規則改訂に向けた新カリキュラムを 2020 年度より実施していくべく作成準備を進めた。同時に作業療法学科とのカリキュラム共有も進め、リハビリテーションユニットとしての魅力的な取り組み構築の準備を行った。社会貢献においては、地域における介護予防教室・企業との連携など一定の成果を上げることができた。(学科長：三木屋)

【作業療法学科】

学修習慣の醸成をはじめ、決め細やかな学修支援を行った。2 回(1 月・3 月)の入学前教育では大学で学ぶための準備を整えた(文章読解力など宿題提出と当日課題)。入学直後からは、チューターを中心に基礎医学系科目の補講(解剖学・ステップアップ講座物理学)を開始し、また基礎医学系の知識習得に関してはアクティブラーニングを活用した。国家試験対策は最重要課題としており、1 年次早期より開始し、模擬試験を継続している。各学科期末テストなどにも国試問題の傾向を導入している。2019 年度の完成年度を迎えるにあたっては、森ノ宮医療大学作業療法学科第 1 回目の国家試験 100%合格を目指す。

臨床力向上のための教育プログラムとして、積極的に患者さまをお呼びし、臨場感あふれる講義を組み立てた。また、各学年の臨地・臨床実習前には、客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination: OSCE)を導入し、実習に必要な臨床能力を確認した上で実習に望んだ。

学科独自の社会貢献にも重点を置き、学生にも積極的に参加させた。学生が近隣の福祉施設へボランティアとして関わり、医療的ケアの研修を受け重度訪問介護のアルバイトも実践している。教員補講の基、福祉住環境コーディネーター検定(任意受験 19 名合格)・メンタルヘルス検定(任意受験 17 名合格)・認知症サポーター(全員)の資格も取得した。(学科長：小林)

【臨床検査学科】

① 国家試験対策の強化

臨床検査学科の取り組みとして全教員の協力の下に国家試験合格に向けて、模擬試験および補講を行い、成績不振者に対する指導に注力した。成績不振者に対する指導についても適宜行った。早い時期に合格ラインをクリアする学生が多くなるよう、前期の模試対策を強化した。

②学生募集の強化

臨床検査学科の認知度の向上、オープンキャンパスへの来場者数増加を図るべき、模擬授業と体験学習に注力をした。H30 年度オープンキャンパスは、前年度比 124% (453 名) の学生来場者数があった。また、入学試験出願者数は、前年度比 114% (556 名) の受検者があり、出願に向けての成果を達成した。さらに、新たな事業として、細胞検査士の資格取得ができるよう教育課程の変更を行うための準備を行った。

③ 臨地実習の強化

臨地実習受け入れは 56 医療機関で、その 4 割は 500 床以上の基幹病院で地域医療の中核を担っている。学生には先端医療を経験し、臨床検査技師としての専門的知識、技能を深め、実践能力を培うことができる環境を整えた。(学科長：脇)

【臨床工学科】

臨床工学科では、開設に伴い既存の学科同様に「国家試験合格率 100%」、「4 年卒業率 95%以上」を目指し、①知的能力の向上による人間力の向上、②学習習慣の確立と日常の自己管理、③ティーチングメソッドの開発、④学生確保の取組、⑤教員の研究活動と研修の充実といった 5 つの課題を設定した。

今年度の学内教育においては、テキストマイニングの活用による新たな教育システムを構築し、専門基礎科目での記述式問題を実施し、テキストマイニングによる評価を行うことが出来るようになり、学生の「読む・聞く・書く・話す」の 4 つの知的能力的要素を高めることが可能となった。また、臨床工学技士に必要なとされる知識と技術を習得するための動画・アニメーション等によるマルチメディアクリップの開発については、教育用のコンテンツの作成が可能となり、このコンテンツの活用により、臨床工学技士教育における専門科目の Web 教材の作成が可能となった。これにより、今後 VR (Virtual Reality) の活用により、実践に近い経験を体現し、その経験の後に理論を学ぶといった教育システムを構築することが可能となった。

学生確保に関しては、広報室と協同し、高校への出張講義や医療や工学に特化した実験を行うサマースクールを開催を行い、臨床工学技士業務の魅力や将来性をアピールすることができた。特に、サマースクールに関しては、臨床工学への認知、興味という点で、参加した高校生に対する効果が認められたので、更なる充実を図りたいと考えている。(学科長：片山)

【鍼灸学科】

新入生 70 名が入学し、5 年連続定員の充足を果たした。オープンキャンパス参加者は 181 名で前年度 30 名増加し、過去 5 年間で最大となった。入学者の 47.1% がスポーツトレーナーなどスポーツ分野での活躍を希望しており、治療院など医療機関 20.0%、体育教師 14.3% と続いた。「地域医療のプロフェッショナル」の育成を目指す学科として、広報活動の再編が求められる。A0 入試、推薦入試、指定校推薦入試での入学が多くを占め、学習習慣が十分ではない学生が多く入学する現状から、教育力の向上は不可欠である。しかし、年度末時点での単位修得率は 75.4% であり、2018 年度中の退学者は 20 名 (7.4%) であった。単位未修得者は各学年に認められ、3 年生では 5 名が 5 年以上の在籍が確定した。単位履修状況を考慮し、科目担当者と協議する必要がある。スポーツ特修コース生 (定員 20 名/学年) は 2-4 年生で 59 名 (29.6%) であり適正であった。国家試験は、はり師 44/50 名 (88%)、きゅう師 46/50 名 (92%) で全国の大学合格率平均を上回ったが、全国新卒合格率は下回った。大学順位は 6/11 位であり、合格者数 2/11 位であった。再建が急務である。卒業生の 3 月末時点における進路だが、一般企業 7 名、教師 5 名、進学 2 名、その他 1 名、医療福祉系 32 名 (68.1%) であった。医療の総合大学において医療福祉系進路選択者が 7 割程度であることは問題であり、教育・研究機関として、業界の魅力を高める取り組みが必要である。学科教員の研究活動は十分とは言えず、教員の研究活動推奨と支援が課題である。(学科長：鍋田)

【大学院保健医療学研究科】

①研究指導および学位授与

保健医療学専攻において、特別研究（いわゆる修士論文）の指導を行い、4名の修了者に修士（保健医療学）の学位を授与した。

②博士後期課程の開設

医療科学専攻博士後期課程を開設し、4名の学生を入学させ、授業及び研究指導を開始した。

② 学術セミナーの開催

各学科、研究科、および研究支援センターで分担し、毎月（計12回）、大学院学術セミナーを開催した。講師は本学教員10名、外部招聘3名が担当した。

④看護学専攻の設置準備

大学企画室および教務室との協働により文部科学省への事前相談を提出し、看護学専攻修士課程の設置については、2020（令和2）年度開設のための届出書類の準備を進めた。（研究科長：山下）

【助産学専攻科】

助産学専攻科において取り組んだ主な事業は、内部受験生の増加、カリキュラムの再編成、専門的分野の産科・新生児の医師の教育参入、長期に分娩介助実習を依頼できる新規施設の開拓、国家試験対策の強化、教育備品の充実であった。内部受験生の増加に関しては、従来の入学金免除に加えて、大学側が数名について学費減免措置をとるとともに受験日を早め、さらに、看護学科教員協力のもと広報活動ができたことで受験生の増加の見通しが立っている。カリキュラムについては教務の協力のもと、文部科学省に申請し、助産実践科目の充実に向けたカリキュラム変更がなされた。教育備品の充実については、備品の整備が早期になされ、充実に向けて進んでいる。30年度に産科医師の産科救急・ハイリスク疾患の教育の参画があり、次年度からの新生児専門医師の講義参画も可能となった。長期実習施設については2施設の開拓ができ、今後も各施設に依頼していく予定である。国家試験については全員が合格したが、今後も引き続き模擬試験を増やすなど、強化に努める。（専攻科長：中西）

【研究支援センター】

研究支援体制の充実に取り組み、さらなる研究推進・研究業績の発信を目指すため、新たに次の事業への取り組みを行った。

・ 研究業績管理システム「研究業績プロ」の導入および稼働

本学の研究業績管理の一元化のため、「研究業績プロ」を導入し稼働させた。これにより、本学の最新の優れた研究業績を速やかに社会へ公表する体制を構築した。

・ 学長推進研究支援事業「学長奨励研究プロジェクト」による支援

学長の指示のもと、本学における研究の一層の活性化・高度化を全学的に目指すため（学長推進研究支援事業）、研究者個人の研究活動を支援し、若手研究者育成や全学的な研究力の向上を目的として、学長奨励研究プロジェクトを実施し、学内で公募した。これは、科研費（若手研究・基盤研究種目）において残念ながら採択には至らなかったものの、審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うものである。平成30年度は以下の2名（2課題）について贈呈した。

工藤 慎太郎 准教授（理学療法学科）

テーマ：足部機能障害に対する足部機能的サポーターの開発

大川 祐世 助教（鍼灸情報センター）

テーマ：鍼灸のエビデンスに対する国民の理解の正確さに関する調査研究

・ 科研費 研究計画調書 閲覧制度による支援

科研費における研究計画調書の作成において有効な情報提供を行うことにより、応募の支援、促進、採択件数の増加を目指すため、研究計画調書の開示を行い希望者が閲覧できるよう体制を整えた。

- ・ 科研費申請セミナーの開催
科研費改革 2018 による応募様式の大幅な改変に対する研究者への支援のため、科研費申請セミナーとして、科研費改革の概要や審査結果の見直し方、新様式の注意点や記載方法等について外部講師により講演を行った。
- ・ 文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」ならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての体制の維持・構築
- ・ CITI Japan e-learning システムを利用した研究倫理教育の実施（研究不正の防止）
- ・ 研究費コンプライアンス研修会による倫理教育の実施（研究費不正の防止）
- ・ 内部資金研究費の研究実態に応じた適正配分による効率的な研究推進・研究活動支援
- ・ 科研費等外部資金研究費の応募・申請支援
- ・ 学術リポジトリ（web）上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊

（センター長：青木）

【健康管理センター】

学生数の増加に伴い健康管理体制のさらなる充実に取り組んだ。特に感染症予防対策・メンタルヘルスケアを拡充し、小児感染症ワクチン接種フロー等健康管理業務を効率的に一元化した。

健康増進関連事項：

- ・ 禁煙宣言の遂行（敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導と禁煙サポート・入学時に誓約書の提出）
- ・ 血圧計の増設

健康管理関連事項：

- ・ 効率的な健康診断実施のための学校保健法に準じた検査項目見直しと経費削減
- ・ 学内感染症予防対策の実施（感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、感染症発症者の抽出・確認・帰宅フローの構築（教務室と連動）・学生相談受付）
- ・ 医務室業務の充実
- ・ みどりの風クリニックとの連携フロー策定
- ・ 外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による医療サービスの拡充
- ・ Will 申請業務の速やかな実施

臨地実習関連事項：

- ・ 臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・ 感染症予防対策に関する全学ルールの統一（日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール）と、それに準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成

メンタルヘルスケア：

- ・ 臨床心理士、心理カウンセラー、看護師などによるカウンセリングの実施
- ・ 外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による匿名相談窓口の拡充
- ・ MOR I カフェ会開催、医務室放課後開放など何でも相談しやすい環境づくり
- ・ 休学者支援

- ・ 欠席過多学生の早期把握などの予防対策の強化 (センター長：前川)

【学修支援センター】

学習支援センターによる低学年教育の充実および国家試験対策を継続した。リメディアル教育・基礎医学教育・国家試験対策が連動して機能するよう、低学年からの学習支援に取り組んだ。リメディアル教育・基礎医学教育について、学習支援センターを中心として、共通教育部門、学科が緊密に連携し、ステップアップ講座として補講体制を提供した。特に基礎医学教育については、各職種で重点的に必要となる知識を共有し、学科特性に応じた内容を展開することで学生の意欲向上に寄与し、継続して高い出席率となった。国家試験対策について、鍼灸学科では今年度より在校生だけでなく卒業生にも支援の幅を広げ、センターアシスタント制度を継続した結果、学力のみならず満足度の向上に寄与した。また、看護学科では東京アカデミー等からの講師派遣による支援を実施した。(センター長：角田)

【教職支援センター】

本センターは、教職に関する業務の集約化を図り、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等、教職を志望する学生の支援を目的として平成30年度設置された。医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、平成30年度は次の取組を行った。

各種ガイダンスの実施：

- ・ 教育実習内諾に関するガイダンス
- ・ 教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・ 教員免許一括申請に関するガイダンス

教員採用試験対策：

- ・ 専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・ 卒業生に対してのサポート(筆記・面接・模擬授業・実技対策)
- ・ 教員採用試験対策に関する図書の貸出し

学校現場体験：

- ・ 学校ボランティアの紹介(小中学校4校に延べ19名が参加)
- ・ 現職の養護教諭を招いての勉強会・交流会の実施

学生サポート

- ・ 学習面や進路等について学生との面談・相談を実施

教職事務の集約化

- ・ 再課程認定申請業務
- ・ 教育実習、介護等体験に関する業務
- ・ 教員免許申請に関する業務
- ・ 教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・ 教員採用試験、教員採用に関する業務

<平成30年度 教職免許状取得実績>

- ・ 教職免許取得者数[教科：保健体育] 15名 (センター長：老田)

【総務室】

総務室では平成30年度新事業であるWEB出願システムの導入に取り組み、受験料収納を従来の銀行振り込みから、コンビニ決済やクレジットカード決済に変更したことなどによる出願利便性の向上を図った。また、新学科設置に向けて安定した人材供給を図るため、中途採用に加え、前年度に引き続き新卒採用を実施したほか、平成30年度新卒採用者に対する新卒研修実施、大学教職員向け全体研修を実施するなど、人材育成にも取り組んだ。そのほか、学生の生活環境および学修環境の充実、大学ブランド力強化を目的として、イーストポート(東棟)2階女子更衣室におけるパウダールーム設置、キャナルポート(南棟)、ウエストポート(西棟)学生休息スペースの席数、およびパーテー

ション追加、全棟への学生用パソコン整備やエントランス整備、スポーツ活動施設管理棟建設、桜植樹などの外構整備などを実施した。（総務室長：瀬川）

【教務室】

教務室では通常業務に加え、臨床工学科ならびに医療科学専攻博士後期課程の開設に伴う業務支援、教職課程再課程申請業務、IPW 関連科目の充実を目的とした企画立案とプロジェクトの運営ならびに提携病院への協力要請、新学科設置関連（診療放射線学科、看護学専攻修士課程）の事務手続きならびに実習地獲得など新規案件に多数従事した。また、学生による各種申請手続き（履修登録不備申請、実習定期申請等）ならびに新規実習施設の申請手続き業務、兼任講師に関する人事情報の登録、更新手続き業務等も WEB 化し、学生サービスの向上と業務の効率化を実施した。

2020 年度からは更なる IPE の充実を目的として、IPW ワーキンググループと協働し、低学年からのチーム医療に関する積み上げ教育を立案した。概要は以下の通りである。チーム医療教育関連座学の各学年での配置、および連携病院と協働したチーム医療見学実習（Early exposure）を計画しており、より医療現場を体感し、チーム医療を実感する教育内容へと進化する予定である。（教務室長：在川）

科目名	科目概要	配当年次
MBS (Morinomiya Basic Seminar)	本授業は、大学生としての学修や生活をスムーズにスタートできるよう、教育課程（カリキュラム）及びその履修方法、学生生活のルール等について概説する。また、本学園の歴史、建学の精神の意味、ディプロマポリシー等についても教授し、医療の歴史及び医療の現在と未来、ひいては医療全般への理解と興味を深めさせることで、医療を学ぶ大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を養うと共に医療従事者としての意識醸成を図ることを目標とする。	1 年前期
チーム医療見学実習	医療の実践現場である病院等の施設において“医療従事者の 1 日”に密着体験することによって医療職への理解を深めさせるとともに、個々の学生が目指す専門職の役割やチーム医療を構成する様々な専門職との関係について学ばせる。また、インター・プロフェSSIONナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性及びチーム医療の実際についても教授する。	1 年前期

医療コミュニケーション	医療現場において、医療の専門性を発揮し、患者に適切な医療を行うためには患者とのコミュニケーションは欠かすことができない。また、他の医療従事者と連携をして患者の治療にあたることが求められるが、コミュニケーションは連携のための重要な手段の1つである。本講義では、患者や医療従事者とコミュニケーションをとるために必要な知識、技術を教授する。	2年前期
チーム医療論	自学科以外の職種について理解と関連性を学び、医療の質の向上、患者中心の医療安全を実践できる医療人としての心構えを教授する。併せて他職種の特性や内容について学び、体験することで、医療従事者間ならびに患者との間に生じる考え方のギャップを理解し、コミュニケーションに生かすことができるパーソナリティを身につけることを目標とし、3年次前期に開講するIPW論への礎とする。	2年後期
IPW論	本学が有する鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科と診療放射線学科の7学科において各分野に共通する症状、障害、危機管理、診療計画などをテーマにチームアプローチの実際について教授する。実際の症例を想定し、各学科の専門性を基に“専門職間連携”の理念を実現するための方法について討議させる。その際、他者の意見を聞き自らの意見を明確に伝える能力を修得させるとともに、当事者主体の原理に立ったアプローチ方法を検討させる。	3年前期

【学生支援室】

学生支援室では通常業務に加え、低学年時からのキャリア支援体制の構築、学生と協働し学生会に関連する各種手続き改定の企画立案支援、学生会主催新規イベントの運営支援、教育後援会のホームページ作成と運営支援、外部奨学金制度の拡充、図書館事務作業支援と学生向け日曜開館に関する業務支援、ボランティア参加学生の支援体制強化など新規案件に従事した。また、課外活動への支援強化、キャリアガイダンスの実施回数増、キャリアカウンセラー増員に伴うキャリア相談体制の強化、健康管理センターと連携し学生相談業務の充実を図るなど学生支援体制の強化に取り組んだ。(学生支援室長：在川)

【経営企画室】

経営企画室では診療放射線学科新設の申請業務に加え、看護学専攻(修士課程)新設の申請業務として文部科学省への事前相談や届出書類および指定申請書類の作成を行い、2019年度中に文部科学省に提出する予定である。

また、細胞検査士課程の申請や、学則・教育課程の変更、寄附行為変更、校地校舎変更届等の各種申請届出業務を行った。

地域連携関係については、市民公開講座の主幹部署として年3回開催したほか、連携協定関係については、ミズノ株式会社、大阪重粒子線センターなど、計5ヶ所との連携協定を結ぶことができた。さらに、看護・理学・作業の3学科の教員が中心となって、南港ポートタウン(太陽のまち)における高齢者支援活動が計画されており、令和元年5月から月1回程度、「もりもりまちの保健室」と名づけた高齢者向け健康相談活動が行なわれる予定で、大学経営企画室が事務局として支援する。

そのほか、「大学コンソーシアム大阪」を母体とする「大阪府地域連携プラットフォーム」に参画したほか、IR活動としては、学生データの編集やIRレポートの取りまとめを行い、提出されたIRレポートは36件であった。そのほか、教職員どうしの交流や理事長と教職員のコミュニケーション促進などを目的に「理事長と教職員の茶話会」を運営し、教職員36人が参加した。(経営企画室長：小島)

【広報室】

2018年度の学生募集活動は、これまでの方針を踏襲し、本学の特徴である「チーム医療教育」を前面に打ち出した広報展開で、ブランディング強化を図った。特に受験生、高校生への直接的なアプローチを重視しながら、多面的な募集活動を行った。具体的には「オープンキャンパス等の学内イベント開催」、「各種パンフレット・リーフレット等による情報発信」、「WEBサイトの制作・運営」、「高校でのガイダンス、学外の合同進学相談会への参画」「高校・予備校への訪問、説明会開催」、「進学情報誌・サイトを中心とした各媒体への広告掲載」等があげられる。

これらの取り組みの結果、本学への資料請求、イベント参加者、WEBサイトアクセス数(※)とともに前年を上回る、順調な推移を辿った。一方、志願者数(学部生募集)については前年の高倍率等の影響もあり、総志願者数では15%程度の減少となった。ただし、全入試を通しての実志願者数では、昨年とほぼ同様の志願者数(前年比95.8%、52名減=1,201名)を確保することができた。

また、上記以外にも、本学が広く認知されることを目的とした新聞広告、交通広告、テレビCM(岡山・四国地区)を展開したり、卒業生や在学生、さらには教職員の本学への帰属意識を高めるために学内報やFacebookで情報発信を行ったりするなど学内外の広報活動に努めた。

※・年間資料請求者数：26,982件(前年比107.6%)

・学生募集学内イベント参加者数：6,816名(前年比111.1%)

・年間WEBサイトユーザー数：565,487件(前年比236.1%)

(広報室長：石塚)

【会計室】

会計室では学生数の増加に対し、学納金に関する専門カウンターを設置したことで、学納金の延分納等年度末の学費未納者はゼロとなった。また、WEB入試化に伴い、会計室の納付書発行フローや入金管理事務にも変更があり、エクセル管理を行ってきた入金管理を学費システムへ移行し、様々な集計が可能となった。

さらに、学内電子マネーの開始により、現金収納のフローや関連機器の取扱に変更があったが、対応マニュアルを整備し運用している。

部署別の年度予算管理や卒業研究費の予算管理資料については、月末締ベースで行い、予算執行の実績把握や予算編成時の参考資料を整備した。(会計室長：岩崎)

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
鍼灸学科	1年生	67	67	70	68
	2年生	63	64	64	64
	3年生	64	61	61	62
	4年生	60	68	75	67
	計	254	260	270	261
定員		240	240	240	240
定員充足率		105.8%	108.3%	112.5%	108.8%
退学者数		7	11	17	
退学率		2.8%	4.2%	6.3%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
理学療法 学科	1年生	70	70	70	70
	2年生	70	70	70	69
	3年生	62	69	70	65
	4年生	69	71	77	69
	計	271	280	287	273
定員		240	240	250	260
定員充足率		112.9%	116.7%	114.8%	105.0%
退学者数		9	7	11	
退学率		3.3%	2.5%	3.8%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
看護学科	1年生	90	90	90	90
	2年生	89	87	90	89
	3年生	86	87	86	83
	4年生	96	91	89	83
	計	361	355	355	345
定員		320	320	330	340
定員充足率		112.8%	110.9%	107.6%	101.5%
退学者数		7	3	13	
退学率		1.9%	0.8%	3.7%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
臨床検査学 科	1年生	72	72	72	72
	2年生		72	72	70
	3年生			72	70
	4年生				71
	計	72	144	216	283
定員		60	120	180	240
定員充足率		120.0%	120.0%	120.0%	117.9%
退学者数		0	0	5	

退学率	0.0%	0.0%	2.3%
-----	------	------	------

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
作業療法学科	1年生	50	50	53	50
	2年生		47	49	52
	3年生			42	42
	4年生				41
	計	50	97	144	185
定員		40	80	120	160
定員充足率		125.0%	121.3%	120.0%	115.6%
退学者数		3	6	9	
退学率		6.0%	6.2%	6.3%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
臨床工学科	1年生			70	71
	2年生				68
	3年生				
	4年生				
	計			70	139
定員				60	120
定員充足率				116.7%	115.8%
退学者数				2	
退学率				2.9%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
学部計	1年生	349	349	425	421
	2年生	222	340	345	412
	3年生	212	217	331	322
	4年生	225	230	241	331
	計	1008	1136	1342	1486
定員		900	1000	1180	1360
定員充足率		112.0%	113.6%	113.7%	109.3%
退学者数		27	27	57	
退学率		2.7%	2.4%	4.2%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
大学院 修士課程	1年生	5	4	7	9
	2年生	5	5	4	6
	計	10	9	11	15
定員		12	12	12	12
定員充足率		83.3%	75.0%	91.7%	125.0%
退学者数		0	0	1	
退学率		0.0%	0.0%	9.1%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
大学院 博士後期課程	1年生			4	1
	2年生				4
	3年生				
	計			4	5
定員				2	4
定員充足率				200%	125.0%
退学者数				0	
退学率				0%	

学生数		H28. 5. 1	H29. 5. 1	H30. 5. 1	H31. 5. 1
助産学専攻 科	1年生	10	10	10	9
	計	10	10	10	9
定員		10	10	10	10
定員充足率		100.0%	100.0%	100.0%	90%
退学者数		1	2	1	
退学率		10.0%	20.0%	10%	

②平成31年度入学試験受験者数

H31年度 看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	107	3	110	105	3	108	7	0	7
公募推薦 前期	328	15	343	327	15	342	40	0	40
公募推薦 後期	155	6	161	148	6	154	11	0	11
一般 前期A日程 3 科目	103	3	106	102	3	105	13	0	13
一般 前期A日程 2 科目	157	3	160	152	3	155	28	0	28
一般 前期B日程 3 科目	35	2	37	33	2	35	7	0	7
一般 前期B日程 2 科目	55	4	59	50	4	54	10	0	10
一般 中期	81	7	88	71	7	78	21	0	21
一般 後期	34	1	35	30	1	31	8	0	8
社会人 I期	1	0	1	1	0	1	1	0	1
社会人 II期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦	7	0	7	7	0	7	7	0	7
計	1064	44	1108	1027	44	1071	153	0	153

H31年度 理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	70	8	78	70	8	78	7	0	7
公募推薦 前期	138	31	169	133	31	164	21	0	21
公募推薦 後期	69	18	87	68	18	86	10	0	10
一般 前期A日程 3 科目	40	10	50	39	10	49	10	0	10
一般 前期A日程 2 科目	66	3	69	65	2	67	15	0	15

一般 前期B日程 3科目	12	7	19	12	7	19	5	0	5
一般 前期B日程 2科目	21	1	22	20	1	21	5	0	5
一般 中期	32	14	46	32	11	43	10	0	10
一般 後期	7	7	14	7	7	14	4	0	4
社会人 I期	2	0	2	2	0	2	0	0	0
社会人 II期	2	0	2	1	0	1	1	0	1
指定校推薦	16	0	16	16	0	16	16	0	16
計	475	99	574	465	95	560	104	0	104

H31年度 作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	18	21	39	17	21	38	16	8	24
公募推薦 前期	14	43	57	14	42	56	11	2	13
公募推薦 後期	4	34	38	3	33	36	2	0	2
一般 前期A日程 3科目	5	10	15	5	10	15	4	0	4
一般 前期A日程 2科目	7	8	15	7	8	15	5	0	5
一般 前期B日程 3科目	1	4	5	1	4	5	1	0	1
一般 前期B日程 2科目	2	1	3	2	0	2	1	0	1
一般 中期	0	17	17	0	14	14	0	8	8
一般 後期	2	7	9	2	7	9	1	3	4
社会人 I期	0	1	1	0	1	1	0	0	0
社会人 II期	1	1	2	1	0	1	1	0	1
指定校推薦	14	0	14	14	0	14	14	0	14
計	68	147	215	66	140	206	56	21	77

H31年度 臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	52	7	59	49	7	56	10	0	10
公募推薦 前期	122	25	147	121	24	145	26	0	26
公募推薦 後期	71	11	82	67	11	78	18	0	18
一般 前期A日程 3科目	39	9	48	37	9	46	9	0	9
一般 前期A日程 2科目	63	6	69	61	6	67	14	0	14
一般 前期B日程 3科目	24	7	31	24	7	31	8	0	8
一般 前期B日程 2科目	42	3	45	41	2	43	7	0	7
一般 中期	41	10	51	38	7	45	15	0	15
一般 後期	17	7	24	16	7	23	10	0	10
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	2	0	2	2	0	2	2	0	2
計	473	85	558	456	80	536	119	0	119

H31年度 臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	29	10	39	29	9	38	25	0	25
公募推薦 前期	31	31	62	31	31	62	27	12	39
公募推薦 後期	3	18	21	2	17	19	2	7	9
一般 前期A日程 3科目	11	9	20	11	9	20	4	0	4
一般 前期A日程 2科目	13	5	18	13	4	17	4	0	4
一般 前期B日程 3科目	5	6	11	4	6	10	2	0	2
一般 前期B日程 2科目	5	9	14	4	7	11	3	0	3
一般 中期	11	10	21	11	9	20	7	0	7
一般 後期	7	3	10	7	3	10	2	0	2
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	1	0	1	1	0	1	1	0	1
計	116	101	217	113	95	208	77	19	96

H31年度 鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	29	10	39	29	10	39	25	0	25
スポーツA0	9	0	9	9	0	9	9	0	9
公募推薦 前期	5	23	28	5	23	28	5	13	18
公募推薦 後期	1	13	14	1	13	14	1	5	6
一般 前期A日程 3科目	5	4	9	5	4	9	5	1	6
一般 前期A日程 2科目	11	3	14	11	3	14	8	0	8
一般 前期B日程 3科目	0	3	3	0	3	3	0	0	0
一般 前期B日程 2科目	2	0	2	2	0	2	2	0	2
一般 中期	2	12	14	2	11	13	2	3	5
一般 後期	1	2	3	1	2	3	1	1	2
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	16	0	16	16	0	16	16	0	16
計	81	70	151	81	69	150	74	23	97

③2019年度 大学院入学試験受験者数

2019年度 大学院研究科 保健医療学専攻	志願者 数	受験者 数	合格者	入学者
第1次募集	5	5	5	5
第2次募集	4	4	4	4
第3次募集	0	0	0	0
計	9	9	9	9

2019年度 大学院研究科 医療科学専攻	志願者 数	受験者 数	合格者	入学者
第1次募集	1	1	1	1
第2次募集	0	0	0	0
計	1	1	1	1

④2019年度 助産学専攻科入学試験受験者数

2019年度 助産学専攻 科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試Ⅰ	4	3	3	2
推薦入試	0	0	0	0
学内推薦入 試	2	2	2	2
一般入試Ⅱ	5	5	5	5
計	11	10	10	9

⑤国家試験合格率

■看護師 第108回

全体	受験者数：63,603人	合格者数：56,767人	合格率：89.3%
新卒	受験者数：58,308人	合格者数：55,216人	合格率：94.7%
本学新卒	受験者数：87人	合格者数：87人	合格率：100%

■保健師 第105回

全体	受験者数：8,376人	合格者数：6,852人	合格率：81.8%
新卒	受験者数：7,456人	合格者数：6,567人	合格率：88.1%
本学新卒	受験者数：10人	合格者数：9人	合格率：90.0%

■助産師 第102回

全体	受験者数：2,105人	合格者数：2,096人	合格率：99.6%
新卒	受験者数：2,079人	合格者数：2,076人	合格率：99.9%
本学新卒	受験者数：9人	合格者数：9人	合格率：100%

■理学療法士 第54回

全体	受験者数：12,605人	合格者数：10,809人	合格率：85.8%
新卒	受験者数：10,608人	合格者数：9,845人	合格率：92.8%
本学新卒	受験者数：67人	合格者数：67人	合格率：100%

■はり師 第27回

全体	受験者数：4,861人	合格者数：3,712人	合格率：76.4%
新卒	受験者数：3,141人	合格者数：2,941人	合格率：93.6%
本学新卒	受験者数：50人	合格者数：44人	合格率：88.0%

■きゅう師 第27回

全体	受験者数：4,655人	合格者数：3,656人	合格率：78.5%
新卒	受験者数：3,141人	合格者数：2,976人	合格率：94.7%
本学新卒	受験者数：50人	合格者数：46人	合格率：92.0%

⑤職種別求人件数

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。看護師、保健師、助産師、理学療法士、はり師、きゅう師、中高保健体育教員等に加えて、作業療法士、臨床検査技師、診療放射線技師や大学生卒業者を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

職種	件数
理学療法士	790
看護師	457
はり師・きゅう師	415
作業療法士	624
助産師	106
保健師	99
臨床検査技師	155
臨床工学技士	56
診療放射線技師	35
その他の医療従事者	997
事務職	4973
営業職	4279
福祉関係(介護職)	965
その他	7098
教員	180
総計	21229

<有効求人倍率について>

本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 平成 29 年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.78 倍（リクルートワークス社調べ）

	鍼灸学科	理学療法学科	看護学科
求人件数 (件)	347	706	525
求職者数 (人数)	49	56	87
求人倍率 (倍)	7.08	12.6	6.03

⑥学修支援センター主催事業

ステップアップ講座（リメディアル科目）：6 講座（35 回）、参加者総数 780 名

- ・看護のための化学と生物（全 5 回）
講師 - 木田（看護学科）、参加者総数 - 101 名
- ・理学療法のための物理学（全 4 回）
講師 - 角田（理学療法学科）、参加者総数 - 115 名
- ・作業療法士のための物理学（全 8 回）
講師 - 松下（作業療法学科）、参加者総数 - 245 名
- ・きっと役立つ！臨床工学技師が知っておいて欲しい代謝の知識！！（全 4 回）
講師 - 辻（臨床工学科）、参加者総数 - 93 名
- ・臨床工学のための化学セミナー（全 3 回）
講師 - 片山（臨床工学科）、参加者総数 - 59 名
- ・臨床工学のための力学・波動セミナー（全 11 回）
講師 - 原・稲田（臨床工学科）、参加者総数 - 167 名

ステップアップ講座（基礎医学科目）：8講座（55回）、参加者総数 798名

- ・看護のためのセミナー（全5回）
講師 - 木田（看護学科）、参加者総数 - 124名
- ・PT・OTのための基礎知識セミナー（全5回）
講師 - 森谷（共通教育部門）、参加者総数 - 93名
- ・理学療法のための機能解剖学（全10回）
講師 - 工藤（理学療法学科）、参加者総数 - 210名
- ・臨床工学のための生理学・解剖学（全6回）
講師 - 五十嵐（臨床工学科）、参加者総数 - 87名
- ・臨床工学のための「循環器・消化器・呼吸器系」の機能と解剖（全3回）
講師 - 藤江（臨床工学科）、参加者総数 - 81名
- ・臨床工学のための人体の機能Ⅱセミナー（全7回）
講師 - 加納・藤江（臨床工学科）、参加者総数 - 36名
- ・臨床工学のための電気工学セミナー（全9回）
講師 - 片山（臨床工学科）、参加者総数 - 104名
- ・運動器理学療法の基礎知識（全10回）
講師 - 前田（理学療法学科）、参加者総数 - 63名

⑦研究業績

英文

- ・ Yoshiyama T, Sugioka K, Naruko T, Nakagawa M, Shirai N, Ohsawa M, Yoshiyama M, Ueda M. Neopterin and cardiovascular events following coronary stent implantation in patients with stable angina pectoris J Atheroscler Thromb 2018. 25 : 1105 - 1117.
- ・ Tsutsumi A, Tachibana Y, Sato F, Furuta T, Ohara H, Tomita A, Fujita M, Moritani M, Yoshida A. Neurosci. 2018. 388:317-329.
- ・ Kurasawa S, Tateyama K, Iwanaga R, Ohtoshi T, Nakatani K, Yokoi K. The Age at Diagnosis of Autism Spectrum Disorder in Children in Japan. Int J Pediatr. 2018;7 doi: 10.1155/2018/5374725.
- ・ Yoshikawa Y, Ohmaki E, Kawahata H, Maekawa Y, Ogihara T, Morishita R, Aoki M. Beneficial Effect of Laughter Therapy on Physiological and Psychological Function in the Elderly. Nursing Open. 2019. 6(1): 93-99.
- ・ Miyashita T, Kudo S, Maekawa Y. Estimation of the ankle power during the terminal stance of gait using an inertial sensor. J. Phys. Ther. Sci. 2019. Volume 31: 354-359.
- ・ Kawanami H, Kawahata H, Miyuki Mori H, Aoki M. Moxibustion Promotes Formation of Granulation in Wound Healing Process through Induction of TGF- β . Chinese Journal of Integrative Medicine. 2018. In press.
- ・ Shishido A, Mori S, Yokoyama Y, Hamada Y, Minami K, Qian Y, Wang J, Hirose H, Wu X, Kawaguchi N, Nagumo S, Matsuura N, Yamamoto H. Mesothelial cells facilitate cancer stem-like properties in spheroids of ovarian cancer cells. Oncol Rep. 2018. 40(4): 2105-2114.
- ・ Uchinaka A, Yoshida M, Tanaka K, Hamada Y, Mori S, Maeno Y, Miyagawa S, Sawa Y, Nagata K, Yamamoto H, Kawaguchi N. Overexpression of collagen type III in injured myocardium prevents cardiac systolic dysfunction by changing the balance of collagen distribution. J Thorac Cardiovasc Sug. 2018. 156(1): 217-226.
- ・ Masumoto K, Tagawa N, Kobayashi Y, Kusuda S. Cortisol production in preterm infants with or without late-onset adrenal insufficiency of prematurity: A prospective observational study. Pediatr. Neonatol. 2018 Dec 21. S1875-9572(18): 30275-4.

- Oinuma K, Suzuki M, Nakaie K, Sato K, Saeki K, Sakiyama A, Takizawa E, Niki M, Niki M, Yamada K, Shibayama K, Kakeya H, Kaneko Y. Genome-based epidemiological analysis of 13 *Acinetobacter* strains isolated from blood cultures of hospitalized patients from a university hospital in Japan. *Japanese Journal of Infectious Diseases*: 2019. Feb. In press.
- Yoshihiro Tsuji, Naoki Suzuki, Yusuke Sakai, Yasumasa Hitomi, Toshiko Tokoro, Masato Nishimura and Yuko Mizuno-Matsumoto. Relationship between dream anxiety in recurrent nightmare and indefinite complaints in patients undergoing maintenance hemodialysis: a cross-sectional study. *International Journal of Affective Engineering*. 17(3), pp.213-220, 2018.
- Sakata K, Okuyama Y, Ozawa T, Haraguchi R, Nakazawa K, Tsuchiya T, Horie M, Ashihara T. :Not all rotors, effective ablation targets for Non-PAF, are included in areas suggested by conventional indirect indicators of AF drivers: ExTRa Mapping project, *Journal of Arrhythmia*, Vol.34, No.2, pp.176-184, 2018.
- Nishikido T, Oyama J, Shiraki A, Tsukamoto I, Igarashi J, Node K. COA-C1 (2-C1-C.OXT-A) can promote coronary collateral development following acute myocardial infarction in mice. *Sci Rep*. 2019 Feb 22;9(1):2533. doi: 10.1038/s41598-019-39222-1.
- Yukinori Terada, Hiroki Toda, Ryosuke Okumura, Naokado Ikeda, Yoshiaki Yuba, Toshiro Katayama, Koichi Iwasaki. Reticular Appearance on Gadolinium-enhanced T1- and Diffusion-weighted MRI, and Low Appearance Diffusion Coefficient Values in Microcystic Meningioma Cysts. *Clinical Neuroradiology*, Volume 28, pp 109-115, March 2018
- Takaya Handa, Hiroko Kakita, Tomomi Endo, Hiroyuki Suzuki, Toshiro Katayama, Tatsuo Tsukamoto, Eri Muso. The features in IgA-dominant infection-related glomerulonephritis distinct from IgA nephropathy. *Clinical and Experimental Nephrology*, October 2018, Volume 22, Issue 5, pp 1116-1127.
- Miyamoto T, Manabe K, Ueda S, Nakahara H. Development of an anaesthetized-rat model of exercise hyperpnoea: an integrative model of respiratory control using an equilibrium diagram. *Exp Physiol*. 2018 May 1;103(5):748-760. doi: 10.1113/EP086850.
- Ueda SY, Nakahara H, Kawai E, Usui T, Tsuji S, Miyamoto T. Effects of walking in water on gut hormone concentrations and appetite: comparison with walking on land. *Endocr Connect*. 2018 Jan;7(1):97-106.
- Atsuko Hata, Taisei Ishioka, Kazunori Oishi, Toshiro Katayama, Takayoshi Ohkubo. Altered immunogenicity of 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine in elderly patients with diabetes who revealed lower responses to concomitant administration of BIKEN varicella zoster vaccine: Results of post hoc analysis of a randomized double-blind trial. *Journal of Diabetes and its Complications*, Volume 33, Issue 3, March 2019, Pages 243-248
- Naoki Suzuki, Yasumasa Hitomi, Yoshihiro Tsuji, Yusuke Sakai, Masato Nishimura, Tetsuya Hashimoto and Hiroyuki Kobayashi. Effect of hemoperfusion with hexadecyl-immobilized cellulose beads on myocardial fatty acid imaging in hemodialysis patients: a case series study. *Renal Replacement Therapy*, 5:5, 2019
- Kawanami H, Kawahata H, Miyuki Mori H, Aoki M. Moxibustion Promotes Formation of Granulation in Wound Healing Process through Induction of TGF- β . *Chin J Integr Med*. 2018.

和文

- ・ 中沢一雄, 天野晃: 心臓が有する制御系と心臓の計測・制御技術の現状と展望, 計測と制御, 第 57 巻, 第 8 号, pp. 553-554, 2018.
- ・ 稲田慎, 柴田仁太郎, 芦原貴司, 中沢一雄: 房室結節における心拍制御機構の解析 — コンピュータシミュレーションによる検討 —, 計測と制御, Vol. 57, No. 8, pp. 563-569, 2018.
- ・ 久木元由紀子, 藤重仁子, 外村晴美, 五十嵐淳介, 前田 薫. 現代ヨガが心疾患・肥満・乳がんサバイバーに与える効果. 森ノ宮医療大学紀要 2019; 13 号 1-14
- ・ 加納寛也, 三里卓也, 当広遼, 柴田康成, 守田佳保里, 大城秀太, 大塚健太, 森島毅, 戸部智. 急性 A 型大動脈解離手術時に頸部 rSO₂ 測定が有用であった 1 症例. Japanese Journal of Extra-Corporeal Technology. 2018;45(2):124-127.
- ・ 加納寛也, 守田佳保里, 大城秀太, 柴田康成, 森島毅, 当広遼, 林太郎, 三里卓也, 岡本一真, 戸部智. 急性期多発性広範囲脳出血を合併した活動期感染性心内膜炎症例に対する人工心肺の経験. 人工臓器. 2018;47 巻 3 号: 244-249.
- ・ 藤江建朗, 田川統基, 中村英夫, & 海本浩一. 健常者のエポック間脈波数変動量を使用した睡眠中覚醒反応の検出精度について. 電子情報通信学会論文誌 March. 2019; D, Vol. 102, No. 3, pp. 194-202.
- ・ 辻義弘, 坂井勇亮, 鈴木尚紀, 人見泰正, 水野(松本)由子, 所敏子, 西村真人. ヘモグロビン overshoot を回避したクエン酸第二鉄投与の管理方法. 腎と透析 (in press)
- ・ 清水俊行, 北川篤, 原良昭, 大門守雄, 菅美由紀, 松本恵実, 三浦靖史: 末期両側性変形性膝関節症患者の歩行速度に関与する両下肢の運動学・運動力学的因子について, 理学療法科学, Vol. 33, No. 5, pp. 795-800, 2018.
- ・ 大門守雄, 原良昭, 赤澤康史: 短下肢装具の初期角度が脳血管障害片麻痺者の歩行に与える影響, 臨床バイオメカニクス, Vol. 39, pp. 361-365, 2018.
- ・ 阿部秀高. 特別支援学級の自立活動における合同学習の有効性についての研究. 人間教育学研究. 2019. 6: 24-33.
- ・ 徳島佐由美. 経験豊富な看護師による重症心身障害児の看護ケア. 日本重症心身障害学会誌. 2018. 43(3): 431-438.
- ・ 徳島佐由美, 藤田優一, 藤原千恵子. レスパイト入院における重症心身障がい児の家族から信頼を得るための経験豊富な看護師のかかわり日本小児看護学会誌. 2019. 28: 35-41.
- ・ 徳島 佐由美, 藤田優一, 藤原千恵子. 重症心身障がい児のレスパイトを目的とした入院に対する経験豊富な看護師の認識. 日本看護学会誌. 2019. ヘルスプロモーション. 83-86.
- ・ 足部足関節評価質問票 SAFE-Q を用いた慢性足関節不安定症を有するスポーツ選手における足部・足関節 QOL の検討. 兼岩淳平, 田中亜吏紗, 羽生瑚幸, 下村咲喜, 工藤慎太郎. 森ノ宮医療大学紀要. 2019. 13: 37-44.
- ・ 2 型糖尿病患者における足部が関連する QOL に関する検討. 濱島 一樹, 工藤 慎太郎, 船橋 益夫, 加藤 桂介, 矢口 敏章, 佐藤 祐. 日本体質医学会雑誌. 2018. 80(2):114-119.
- ・ 稲垣 優, 木内隆裕. 徒手筋力計を用いた座位足関節背屈筋力測定の検者内信頼性. 森ノ宮医療大学紀要. 2019. 13: 15-22.
- ・ 山下仁, 藤村佳奈, 増山祥子, 大川祐世. 機能性表示食品の機能性の科学的根拠に関する質の評価. 日本統合医療学会誌. 2018; 11(3): 320-326.
- ・ 大月隆史, 堀川奈央, 松熊秀明, 鍋田理恵, 鍋田智之. 非侵襲性微細突起を用いた足底部皮膚への持続刺激が睡眠に与える影響. 全日本鍼灸学会雑誌. 2018;68 巻 4 号:294-299.
- ・ 上野薫, 前濱良太, 国正陽子, 牧野晃宗, 佐野加奈絵, 貴嶋孝太, Komi PV, 石川昌紀. 陸上短距離選手におけるハムストリングス各筋内の筋横断面積の形態分布の特徴と競技力との関係. 体力科学 67; 383-391.
- ・ 吉山 美仁, 久下 浩史, 辻 あゆみ, 南方 克之, 辻 涼太, 古田 高征, 尾崎 朋文

顔面部鍼施術が顔面部のうるおいに与える影響, 全日本鍼灸学会雑誌 68 巻 2 号 Page113-119(2018. 05)

- 吉山 美仁, 久下 浩史, 辻 涼太 顔面部に対する鍼施術が水分量、油分量、顔検査票に与える影響, 全日本鍼灸学会雑誌 68 巻 4 号 Page257-264(2018. 11)
- 玉木 奈美, 久下 浩史, 辻 涼太 フェイシャルケアを中心としたエステティック施術と鍼灸施術併用に対する効果, 全日本鍼灸学会雑誌 69 巻 1 号 Page41-46(2019. 2) 外林大輔, 川畑浩久.
関節拘縮の病態進展メカニズムと低出力超音波パルス (Low Intensity Pulsed Ultrasound) の影響. 日本柔道整復接骨医学会誌. 2019. 第 25 巻 3 号:125-132.
- 塚田桃代, 中西伸子. 産褥期の母親の鬱症状の予防に向けた祖母の支援の検討. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. 2018 ; 14 : 57-66.
- 河合由紀, 中西伸子. 勤労更年期女性の乳がん検診に関連する要因、奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. 2018 ; 14 : 45-56.
- 坂野藍子, 中西伸子. 夫の妻の産後の精神状態における知識と妻の育児ストレスとの関連. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. 2018 ; 14 : 19-27.
- 荒川晴加, 中西伸子. 母乳栄養確立を阻害する要因の検討と母乳育児における自己管理方法の実態. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. 2018 ; 14 : 28-36.
- 若林沙知, 中西伸子. 大学生の性行動の実態と性感染症罹患に対する予防行動との関連について. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. 2018 ; 14 : 37-44.
- 西川美樹, 紙野雪香, 細田泰子. 看護系大学の学生における看護プロフェッショナルリズムの認知. 日本医学看護学教育学会. 2018; 27(2): 1-8.

⑧競争的研究資金獲得状況 (文部科学省科学研究費助成事業-科研費-)

<新規>

- 基盤研究 (C) 川畑 浩久「廃用性関節拘縮における RA 系の役割：高齢者 ADL 維持への新戦略」
- 基盤研究 (C) 佐野 加奈絵「超スマート社会実現に向けた高齢者の骨格筋調整メカニクスの解明」
- 基盤研究 (C) 中原 英博「最新トレーニング理論に基づく革新的運動プログラムのアスリートへの応用」
- 若手研究 横井 賀津志「暮らしに溶け込んだ二重課題を用いた在宅型の認知機能低下予防プログラムの開発」
- 研究活動スタート支援 阿部 秀高「特別支援学級の合同学習による自立活動のカリキュラム作成に関する研究」
- 研究活動スタート支援 木納 潤一「統合失調症者が笑いながら楽しく取り組む認知機能リハビリテーション CAT の効果検証」
- 研究活動スタート支援 辻 義弘「自律神経機能安定化による血液透析患者の身体的な機能改善および QOL の向上」
- 研究活動スタート支援 西垣 孝行「工肺に対する客観的評価指標を用いたガス交換性能の維持管理ガイドラインの策定」

<継続>

- 基盤研究 (B) 宮本 忠吉「システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病態生理機構の解明」
- 基盤研究 (C) 原 良昭「ハンドバイクにおける駆動フォームの定量的評価手法に関する研究」 (延長)
- 基盤研究 (C) 吉村 弥須子「生体肝移植ドナーの妊娠・出産の体験と医療支援に関する研究」 (延長)
- 基盤研究 (C) 稲田 慎「3次元房室結節モデルによる心拍制御機構解明と心房細動治療戦略のための医工連携研究」

- 基盤研究 (C) 中沢 一雄「バーチャル心臓とベクトル心電図の4次元構成的手法による不整脈の発生部位同定」
- 基盤研究 (C) 吉田 えり「看護師のストレス反応を低減させる職場環境改善プログラムの確立」
- 基盤研究 (C) 緒方 昭子「腹腔鏡下手術後患者に対するソフトマッサージ効果の比較ランダム化試験」
- 基盤研究 (C) 森 誠司「癌の浸潤転移におけるFGF受容体とインテグリンのクロスシグナリング」
- 基盤研究 (C) 山下 仁「代替医療の臨床研究論文の質：システムティック・レビュー変法による評価」
- 基盤研究 (C) 伊津美 孝子「医療ビッグデータ時代における看護の「見える化」推進eラーニングシステムの開発」
- 若手研究 (B) 木内 隆裕「上肢筋力のCross-educationに関わる神経基盤の解明」
- 若手研究 (B) 下村 咲喜「女性の腹圧性尿失禁に対する骨盤底筋エクササイズの研究」
- 若手研究 (B) 関口 敏彰「地域在住高齢者の健康寿命延伸に資する腎機能保持を考慮した栄養摂取量の検討」
- 挑戦的萌芽研究 宮本 忠吉「高位中枢の予測見込み的制御が激運動時の呼吸循環動態および神経内分泌機能に及ぼす影響」

⑨人権問題啓発活動（人権問題委員会主管）

平成31年3月11日 人権問題委員会研修会の実施

講師：帝塚山大学 心理学部

大学院心理科学研究科 教授 新澤 創先生

研修会テーマ：教職員に向けてのLGBT基本研修

1. LGBTとは 2. 学生への対応の仕方

⑩平成30年度連携協定

平成30年4月19日 ミズノ株式会社 … 包括連携

平成30年5月1日 ヒューマンプランニング株式会社（大阪エヴェッサ） 相互連携

平成30年7月5日 SAHMYOOK 大学（韓国）… 連携協定

平成30年11月1日 近畿大学医学部附属病院 … 相互連携

平成30年12月3日 大阪重粒子センター … 相互連携

⑪社会貢献事業座

市民公開講座〔年3回〕

4月15日(日) 10:30~12:00	命を守る 臨床工学	基調講演	命を守る臨床工学
		講演Ⅰ	人工透析の進歩
		講演Ⅱ	手術と臨床工学
		講演Ⅲ	暮らしと工学機器
6月17日(日) 10:30~12:00	がん診療の 最前線	基調講演	がん診療の最前線
		講演Ⅰ	がん患者の看護
		講演Ⅱ	腫瘍マーカーについて
		講演Ⅲ	緩和ケアと鍼灸
10月28日(日) 13:30~15:30	パーキンソン病	基調講演	パーキンソン病―診断と治療―
		講演Ⅰ	パーキンソン病と看護
		講演Ⅱ	パーキンソン病と理学療法
		講演Ⅲ	ニューロダンスによる予防と治療

3. 森ノ宮医療学園専門学校

(1) 実施事業の概要

学園の第1期中期経営計画の到達目標として「関西圏の医療系専門学校の中でトップクラスになる」を掲げ、「私たちは、伝統医学を継承し技を極め、心ある臨床家を育てます」を専門学校のミッションに定めている。第1期中期経営計画の最終年度となる2018年度については、以下の主要事業を展開した。

1) 教育事業の概要

①在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動

【鍼灸学科】

- ・ 新入生に入学前から課していた課題について入学後すぐにチェックテストを実施し、早期からの学習を促すとともに、各学生の学習への取り組みの問題点の把握を行った。
- ・ 基礎医学ゼミに加え、総合的に解剖学・生理学・臨床医学各論を学習できるゼミとして学習関連ゼミを開講した。この結果、特に3年生における成績の向上がみられ、国家試験の合格にもつながった。
- ・ 本校に関する教育として、新入生に対して校長によるオリエンテーションを実施し、本校の伝統や教育に対する方針を伝えるとともに本校に対する愛着を持ってもらえるようにしている。
- ・ 学生の学習に対する悩みなどを早期に把握するために全学生に対し、年に3回以上の面談を実施している。
- ・ 1年次より定期的、計画的に診断テストや模擬試験を実施することにより、早期に現状の把握を行っている。これにより、学習状況に問題のあると思われる学生に対してきめ細やかな対策を立てることができ、個々の学生はもちろん、全体的な成績の向上がみられた。
- ・ 両学科合同で体育実習を開催し、クラス内だけでなく、学科およびクラスを越えてコミュニケーション能力の育成と親交を深めることができた。
- ・ 1年次からの定期テスト等の各種試験や面談の結果などを一覧で確認することができる学生カルテを作成し、2019年度以降の指導に活用していく。
- ・ 従来から行っている鍼灸受療体験も引き続き継続している。
- ・ 今年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。特に定期試験で躓いてしまった内容をきちんと復習する機会となっており、その後の年次進行に伴う理解不足の増大を解消することができている。
- ・ 2018年度入学生より各期における定期試験不合格から未修得単位に至る過程を大きく改善し、これまでは定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。それでもなお不合格の場合は年度末に実施される未修得単位試験に合格できなかった場合のみ留年となることとした。一見試験が増えることとなり学生の負担が増える様には見えるが、実際はそうではなく、むしろ理解不足を解消するよい機会となっており、学修内容を理解したうえで進級できるようになっている。実際に2018年度においては留年者が発生せず、複数の試験を重ねることで成績不振者の学修進度もこれまで以上に把握することができるようになっている。

【柔道整復学科】

- ・ 救急救命方を習得するために日本 ACLS 認定資格取得講座を開催した。
- ・ 魅力ある柔道整復実技および臨床実習を実施するために内容を再検討した。2018年からの新カリキュラムへの移行に合わせ、コンプライアンスの遵守と多角的な見地をもって適切かつ魅力ある内容となった。

- ・2年生アドバンスコースにおいてアメリカ研修を開催した。TEXAS A&M 大学 commerce 校にてスポーツ現場での外傷評価や処置だけでなく、医療現場との関わり方、コミュニケーション能力などについて学習した。学生の大きな成長も実感する事ができた。
- ・附属クリニックにおける臨床実習および症例検討会を開催した。柔道整復師である前に医療人を目指す者としての自覚を促し、その中で外傷に対する評価や処置について学び、職業意識を向上させた。また、1年次から実施することとし、入学後の早い段階で臨床現場の空気に触れることができるようにした。
- ・夏季特別講座を開催した。1年次は身体の基本を知る骨学実習、2年次はスポーツに特化したスポーツトレーナー演習を行うなど、クラスの友達同士内で教え合ったり、身体を動かしたりすることで「分かる」、「出来る」という意識を根付かせ、向学心を育成した。
- ・欠席者への早期連絡、成績不振者の早期面談・指導を実施し、出来るだけ早い段階で当該学生に対してフォローを行うようにした。
- ・両学科合同で体育実習を開催し、クラス内だけでなく、学科およびクラスを越えてコミュニケーション能力の育成と親交を深めることができた。
- ・1年生の成績不振者を対象に解剖学・生理学・柔道整復総論の各ゼミを開催した。これにより基礎学力が身に付き、学習方法の習得や初年次の躓きが解消できた。
- ・過去の成績データ（学科全体）から、学生個々の成績（現状）を分析するデータを作成し、個別指導に使用した。
- ・今年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。特に定期試験で躓いてしまった内容をきちんと復習する機会となっており、その後の年次進行に伴う理解不足の増大を解消することができている。

②国家試験対策

【鍼灸学科】

- ・1年次から使用できるオリジナルの国家試験対策ドリルの作成を行い、学生が現在の理解度を確認できるようにした。
- ・3年生の成績不振者を対象とした特別強化授業を実施し、国家試験の合格に結び付けることができた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして森ノ宮塾と銘打ったゼミを両学科合同で開講している。取り組みが功を奏し、今年度は既卒者合格率が例年よりも上昇した。

【柔道整復学科】

- ・共通ゼミや実技ゼミを週1回、3科目模試も年6回程度実施している。また週1回のペースで小テスト問題を提示し、添削後、学生一人一人に間違ってしまった問題について教科書で調べさせたうえで解説を作成させ、これを教員がチェックしている。これにより主要3科目を中心に理解を深めつつ問題対応能力を身につけ、早い段階で国家試験への意識づけを行うことができた。
- ・外部の模擬試験を2回開催した。自校作成の問題だけでなく視点の違う問題を解いていくことで、国家試験合格に向けての幅の広い問題対応力が身に付いた。
- ・2年生では自分で採点を行い、問題のポイントについてまとめさせる3科目模試や日めくりドリルを行った。これにより学習の習慣を身に付けさせ、次年度に迫った国家試験への意識を高めることができた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして森ノ宮塾と銘打ったゼミを両学科合同で開講している。取り組みが功を奏し、今年度は既卒者合格率が例年よりも上昇した。

③社会貢献

【鍼灸学科】

- ・卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活（「臨」床に「活」用できるセミナー）」を年6回実施。卒業生の参加者が年々増加している。

【柔道整復学科】

- ・第11回 森ノ宮柔道整復学術集会を開催した。卒業生が中心の集まりであるが、教員も発表や座長などで研鑽を積んでいる。

④教員研修

【鍼灸学科】

- ・昨年度に引き続き月に1回、Word・Excel講座を実施した。

【柔道整復学科】

- ・授業などの質を向上させるために、各教員がそれぞれ「研究」「臨床」「トレーナー」などの活動に取り組んでいる。教員の資質向上に加えて、研究結果や実際の症例を授業に盛り込むことで、教科書だけでは学べない幅広い内容の授業が展開できている。

2) 事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善および効率化について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【教務部】

- ・「アロマコーディネーター資格取得講座」を例年通り春季ならびに秋季に開催し、春季17名、秋季11名が受講した。また、助産学専攻科の必修科目として森ノ宮医療大学でも同内容にて開講した。
- ・NESTA パーソナルトレーナー資格養成講座ならびにフォローアップセミナーを開催した。資格養成講座は定員20名のところ希望者多数により25名が受講した。
- ・例年通り、日本赤十字血液センターの献血活動に協力した。2019年2月5日に献血車が来訪。37名が採血を行った。
- ・2019年3月25日、26日の両日に実施された近江杯高校柔道大会に柔道整復学科の教員を救護班として派遣した。今回は初めて学生の参加を募り、4名が救護助手として活動した。また明治東洋医学院専門学校との連携も行った。
- ・大阪府専修学校各種学校連合会の「外国人留学生のための出前授業」に登録している本校プログラムにKIJ語学院（神戸市）から依頼があり、2018年11月1日に「カラダの不思議を体験してみよう!」、2019年3月6日に「ツボをとってみよう!」をそれぞれ開講した。
- ・柔道整復学科アドバンスコースの学生を対象に開講しているエッセンシャル・プロジェクトデザインゼミの活動として2018年4月28日と2018年5月26日の2日間、Morinomiya Active Kids Project「ケガを防ぐ身のこなしを学ぼう」教室を実施した。また、2017年度の同教室と2018年4月28日の結果をまとめ、2018年6月1日に神戸国際会議場で開催された第57回近畿公衆衛生学会にてゼミの学生2名と指導教員2名がそれぞれ研究発表を行った。
- ・レッドブルNeymar' Jr Five（フットサル大会）にメディカルスタッフを派遣した。今年度は2018年4月21日の大阪予選（Jグリーン堺）と2018年6月1日のジャパンファイナル（大阪城公園）を本校が担当し、その他の地区予選は現地近くの全国柔道整復学校協会加入校に依頼し、担当していただいた。
- ・施術所訪問を行った。訪問件数は7件で一部は企画グループと連携して訪問した。運営状況や業界の外部環境について有益な情報を得ることができた。
- ・第2回柔道整復師・鍼灸師のためのメディカルショーを企業の協力を得て、2019年3月21日（木・祝）に校友室と協働で開催した。189名の来場があり盛況であった。
- ・連携協定を締結している社会体育専門学校の医療特修コースの学生7名がダブルスクール入学審査を受け、2019年4月から鍼灸学科夜間コースに6名、柔道整復学科夜間コースに1名が入学することとなった。（教務部長：葉山）

【学務課】

- ・2018年4月に「春の就職フェア」を行い、ご協力いただいた求人先の求人情報を本校舎1階に掲示した。
- ・2018年10月14日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院65院、卒業生を含む参加学生70名であった。
- ・卒業後半年を経過した卒業生に郵送にて進路調査を行った。各人の進路および就職状況を確認する事ができた
- ・2018年6月と2018年9月に就職ガイダンスを各3回実施し、高卒生を中心に23名の参加があった。
- ・教務システムにおいて定期試験結果を各担当教員が直接入力できるようにし、成績処理の迅速化が達成できた。
- ・各省庁からの調査に学務課が主体となって回答することとした。結果的に回答に必要な各種の校内の情報の集約を行う事ができ、一元的に管理することが可能となった。
- ・教育訓練給付制度における初の修了生に対し、卒業後の追加支給に必要な申請用紙を送付した。これにより当該制度におけるすべての手続きが完了した。
- ・日本学生支援機構奨学金に関する手続きについては例年通り滞りなく行う事ができている。今年度から給付奨学金が開始されているがこちらについても対象の学生とは連携が取れている。また、2019年度からはマイナンバーも導入される。
- ・毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育において、早期合格者特典として「基礎からの生物」科目を追加し、入学前に基礎的な知識を身に付けてもらえるようにした。
- ・柔道整復師専科教員認定講習会の大阪会場主管校を務めた。
- ・これまで卒業式については大阪市内のホテルで開催していたが、ホテル側の都合により会場とすることができなくなったため、本校舎7階を会場として開催した。
- ・求人情報検索システム「けんさくん」の改修を行い、特に学生による求人検索の利便性が向上した。
- ・学生による授業評価アンケートの方法を見直し、学生による授業アンケート、教職員による授業見学、担当教員による授業点検評価を1枚のレポートにまとめ、視認性を向上させた。
- ・例年参加している文化祭において、恒例のヨーヨー釣りに加え巨大間違い探しを出店した。
- ・2019年1月20日に入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて67名の参加があり、アンケート結果では満足度98.5%であった。
- ・はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートを行った。

(学務課長：矢納)

【管理課】

- ・本校舎7階講堂およびホール、5階実技室、1階実技室、1階教室の空調機器更新ならびに追加工事を行った。
- ・本校舎3階306実技室前に更衣室を移設した。
- ・406教室を自習教室として開放した。
- ・3F学生ホールのレイアウト変更およびセブンイレブン自動販売機の導入を行った。
- ・本校舎3F学生ホールの飲料自動販売機を1台追加した。
- ・アネックス校舎4Fホールのワイヤレスマイクのチャンネル数を4チャンネルへと増設し、イベント開催時における利便性が向上した。
- ・本校舎603・503実技室及び保健室のベッド外装の入替を実施した。
- ・606教室のホワイトボードの黒板への入替を行った。
- ・アネックス校舎防犯カメラを高精度なものに更新した。
- ・新入生歓迎会ならびに文化祭において、学生会に協力して運営サポートを行った。

(管理課長：入江)

【広報課】

- ・公式 web サイトの管理を行い、88,882 件のアクセスを得た。
- ・フリーペーパー「ここ+から」を4回発行した。
- ・SNS (twitter、Facebook、instagram) の運営を行い、多数のアクセスを得ることができた。
- ・ならどっと FM の情報コーナー「元気もりもり学園」に参画し、週1回本校教員が出演することにより放送地域における本校の認知度を高めることができた。
- ・奈良テレビ情報番組「ゆうドキッ！」の放送枠に参画し、月一回本校教員が出演することにより放送地域における本校の認知度を高めることができた。
- ・教務部と協働で NESTA パーソナルフィットネストレーナー資格養成講座の開催、運営を行った。
- ・スポーツセミナーおよびウェルエイジング講座を開催した。外部から多数の参加者があった。
- ・出張授業を1年間で29回実施し、好評を得た。
- ・中学、高校の修学旅行内における研修としての講座を本校で開催した。

(広報課長：小笠原)

【企画グループ】

- ・明治東洋医学院及び他部署（教務部/柔道整復学科）と連携して近江杯高校柔道大会に「救護班」として参加した。2018年度は柔道整復学科夜間1年生4名を救護補助スタッフとして受け入れた。4人全員から、「実習や授業ではない現実を見ることができ、大変有意義だった」との感想を得た。
- ・教務部と連携し、卒業生治療院を数件訪問、運営状況や業界の外部環境について見学ヒアリングを行った。収集した情報は学内に開示し共有化を図った。
- ・校友会決算報告書作成業務の効率化を図るため、校友室に簡易システムを作成提供した。
- ・京都治療院の患者数動向、収入状況の把握を効率化するためにデータベースを作成し提供した。
- ・Google アナリティクスで収集した情報を提供し、京都治療院ホームページの改善等を図った。
- ・古本募金活動も引き続き実施している。昨年度46冊に対し、今年度は6月（40冊）、11月（35冊）の計75冊の古本募金があった。

(企画G：成田)

【学術部】

- ・学術・研究活動に対する支援として前年度実績に基づいて個人学術研究費を適切に配分した。今年度は全体としてはやや低調な利用となった。
- ・今年度の学術活動実績は学会発表13題、学術論文7題と例年より少ない結果となった。
- ・倫理委員会の運営においては、2016年度より研究倫理審査も開始しており、今年度も適切な倫理審査が行われた。
- ・学術活動の成果の発信としてホームページで今年度の学術活動を報告した。

(担当部長：葉山)

【図書室】

- ・図書委員会を2018年9月3日と2018年12月20日に開催し、購入図書を決定したほか、今後の図書室の運営、活動について検討を行った。
- ・図書室会議をほぼ月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行った。
- ・今年度は図書委員会での決定を受けて新規図書の購入を行った。
- ・校友会から図書購入費として30万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・図書購入リクエストを学生、教職員を対象に実施した。
- ・蔵書点検も滞りなく行われた。

- ・文献検索オンラインシステムについては、専門学校ではセキュリティ上運用が困難な部分があり、今年度から契約を中止した。(部長：吉川)

3) 広報事業

広報事業については、主に下記の事業により行われた。資料請求者数、イベント来校者数は前年を大きく上回り本校の魅力を多くの方に伝えることはできたものの、志願者数は前年並みに留まった。

【実施事業】

- ・校内イベントの実施（オープンキャンパス、学校説明会、入試対策講座、授業見学会、個別相談会）
- ・各種広報誌の作成（学校案内パンフレット、入試要項、季刊誌、イベント告知DM、高校生向けパンフレット、社会人向けパンフレットなど）
- ・WEBサイト制作（広報課と連携）
- ・WEB広告の掲載
- ・高校訪問、高校ガイダンスの実施
- ・進学媒体（進学情報誌、進学サイト）への広告出稿
- ・本校認知度向上を目的とした高校前電柱広告、地下鉄アナウンス広告等の実施

【事業成果】

- ・資料請求者数 4,551件(昨年比 126.9%)
- ・イベント来校者数：500名（昨年比 125.9%）
- ・志願者数 176名（昨年比 100.0%）

(2) 事業成果の概要

①在籍学生数

(単位：人)

2019年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学 科	昼	76	2	1	60	2	2	56	6	0	192	10	3
	夜	24	0	0	17	0	0	15	0	0	56	0	0
柔道整 復学科	昼	34	0	0	49	0	0	47	10	1	130	10	1
	夜	20	0	0	19	1	1	13	3	0	52	4	1
合計		154	2	1	145	3	3	131	19	1	430	24	5

*留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2018年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学 科	昼	72	3	0	56	1	0	74	11	1	202	15	1
	夜	21	1	0	16	0	0	14	3	0	51	4	0
柔道整 復学科	昼	58	2	0	41	2	0	68	6	1	167	10	1
	夜	18	0	0	10	0	1	9	2	0	37	2	1
合計		169	6	0	123	3	1	165	22	2	457	31	3

*留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2017年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学 科	昼	66	2	0	65	4	1	81	8	0	212	14	1
	夜	18	0	0	12	1	0	22	1	0	52	2	0
柔道整 復学科	昼	50	4	0	72	6	1	69	8	0	191	18	1
	夜	10	0	0	11	2	2	21	4	0	42	6	2
合計		144	6	0	160	13	4	193	21	0	492	40	4

* 留年および休学は在籍者数の内数

②年度別退学者数

(単位：人)

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
退学者数	42	51	34	38	42
退学者比 率	5.8%	7.8%	6.2%	7.7%	9.2%
在学生数	725	656	545	492	457

③志願者数

(単位：人)

入学年度		2015	2016	2017	2018	2019
学科	コース	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前	45	50	56	42	46
	医療資格者	13	4	—	—	—
	昼間	21	27	18	33	39
	夜間	21	16	20	21	27
	未定	19	—	—	—	—
柔整	アドバンス	34	25	23	32	19
	昼間	52	54	26	26	21
	夜間	22	9	11	22	24
	未定	6	—	—	—	—
合計		233	185	154	176	176

④国家試験合格率

<2018年度>

はり師きゅう師国家試験（第44期）

国家試験成績		2018年度（第27回）2019年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	63	59	93.7%
	きゅう師	63	59	93.7%
全現役受験者	はり師	3141	2941	93.6%
	きゅう師	3141	2976	94.7%
本校全受験者	はり師	126	78	61.9%
	きゅう師	119	76	63.9%
全受験者	はり師	4603	3548	77.1%
	きゅう師	4394	3500	79.7%

柔道整復師国家試験（第17期）

国家試験成績		2018年度（第27回）2019年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	54	48	88.9%
全現役受験者	柔道整復師	4069	3502	86.1%
本校全受験者	柔道整復師	129	62	48.1%
全受験者	柔道整復師	6164	4054	65.8%

<2017年度>

はり師きゅう師国家試験（第43期）

国家試験成績		2017年度（第26回）2018年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	79	61	77.2%
	きゅう師	79	64	81.0%
全現役受験者	はり師	3454	2554	73.9%
	きゅう師	3453	2712	78.5%
本校全受験者	はり師	133	66	49.6%
	きゅう師	131	70	53.4%
全受験者	はり師	4622	2667	57.7%
	きゅう師	4555	2845	62.5%

柔道整復師国家試験（第16期）

国家試験成績		2017年度（第26回）2018年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	68	47	69.1%
全現役受験者	柔道整復師	4261	3346	78.5%
本校全受験者	柔道整復師	136	53	39.0%
全受験者	柔道整復師	6321	3690	58.4%

⑤ 求人状況

・求人倍率

	鍼灸学科 (はり師・きゅう師)	柔道整復学科 (柔道整復師)
求人数 (人)	3,088	3,224
求職者数 (人)	51	47
求人倍率 (倍)	60.5	68.6

4-1. みどりの風 鍼灸院

1) 人員について

平成 30 年度は常勤 4 人、金曜日午前診 1 人、月～木曜日の午前・午後診 1 人の計 6 人体制で対応した。

2) 鍼灸院業務日程について

- ①診療日数 238 日
- ②休診日
- a) 土曜・日曜・祝日 118 日
 - b) 夏期休診日 4 日 (8/13・14・15・16)
 - c) 年末年始休診日 4 日 (12/31～1/3)
 - d) 開院記念日 1 日 (6/6)
 - e) 臨時休診 (台風 21 号) 1 日 (9/4)

3) 鍼灸院診療時間について

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00～11:00	○	○	○	○	○	×
午後診 1:30～4:00	○	○	○	○	○	×
夜間診 4:30～7:30	○	○	×	○	○	×
休診日	土曜日、日曜日、祝日					

4) 鍼灸院行事日程について

- ①第 67 回全日本鍼灸学会学術大会 (大阪大会) : 2 日間 (平成 30 年 6 月 2 日、3 日)
- ②第 69 回日本東洋医学会学術総会 (大阪市) : 3 日間 (平成 30 年 6 月 8 日～10 日)
- ③第 57 回日本臨床鍼灸懇話会全国集会(大阪大会) : 2 日間 (平成 30 年 11 月 17 日、18 日)
- ④みどりの風鍼灸院「東洋医学基礎ゼミ」(専門学校 2・3 年対象)
- ⑤毎月第 1 月曜日 : クリニック・鍼灸院合同定例会議 (AM 8:00 ～)

5) 鍼灸院学術活動報告について

- ①学会発表・活動
- a) 第 67 回全日本鍼灸学会学術大会 (大阪大会 : 6 月 2 日、3 日) 場所 : 森ノ宮医療大学
ポスター発表 : 3 題
 - ・「小児アトピー性皮膚炎に鍼灸治療が有効であった一症例」
ー 弁証に基づく小児はり法ー
 - ・「腰背部痛に対する鍼灸治療の 1 症例」
ー バイオリニストが訴えた症例ー
 - ・「難治性慢性前立腺炎に対する鍼灸治療の 1 症例」
 - b) 日本臨床鍼灸懇話会定例会 (平成 30 年 10 月 14 日)

場所：森ノ宮医療学園専門学校

- ・「経過良好であった末梢性顔面神経麻痺の1症例」
—現代医学的アプローチの症例—
- ・「末梢性顔面神経麻痺に対し鍼灸治療が奏効した1症例」
—東洋医学的アプローチの症例—

②基礎ゼミ

「東洋医学基礎ゼミ」（専門学校2・3年対象、毎月・金曜日、通年）

6) 鍼灸院見学について

- ・海外からの見学（10月5日）：ドイツ人2名（9：00～13：30）

7) 鍼灸学科臨床実習について

平成30年度の新1年生から臨床実習のカリキュラムが変更された。（1単位：45時間／3年間→4単位：180時間／3年間に拡充）ただし、2、3年生については卒業年次までは旧カリキュラム単位で行う。

※現在本学園では旧臨床実習のカリキュラムは3年間で2単位の90時間。（1単位：45時間）

①鍼灸学科臨床実習の日程とプログラムの進行

従来通りに「各学生の技能に併せた参加・ステップアップ方式」を実施。

ただし、1年次は1単位（45時間）とする。

1年次は、3クール：1クールの3日間（1日の実習時間は5時間→15時間×3クール→45時間）

②実習参加時間帯

- ・昼間コース（1～3年）：午前診
- ・夜間コース（1～3年）：午後診
- ・午前コース（1・2年）：午後診
- ・午前コース（3年）：午後診と夜診のスクランブル

③臨床実習の向上について

鍼灸学科学生の鍼灸実技・臨床能力、臨床実習内容のスキルアップを図る

平成30年度の新1年生から臨床実習のカリキュラムが変更に伴い、「臨床実習ガイドブック」の作成と実習生に個別にガイドブックの配布。

a) 臨床実習個人ファイルの配付：みどりの風鍼灸院「臨床実習ガイドブック」の作成

<1年次ガイドブックの内容>

臨床実習の心得

Chapter1：みどりの風鍼灸院の基礎知識

★施術の見学マナーと見学すべきポイントについて

1. 鍼灸院の各ブースの配置とアルファベットを確認しておこう
2. ブースの鍼灸ワゴンの備品と配置を確認しておこう
3. ブースのメタルラックの備品と配置を確認しておこう
4. ベッドの昇降の確認を確認しておこう
5. ブース内の換気扇の機能を確認しておこう
6. ブースの中をスケッチしよう①ベッドの周辺. ②ブース内を全体に

Chapter2：みどりの風鍼灸院受付マニュアル

1. みどりの風鍼灸院の患者さんの流れ
2. 鍼灸院スタッフ、予約台帳を確認しておこう
3. 臨床実習担当表の内容を覚えよう
4. 受付の流れを覚えよう
5. 内線電話をとってみよう
6. 外線電話をとってみよう
7. 患者さんの治療が終わったら・・・

Chapter3：鍼灸ワゴンとブースの片付け

1. 鍼灸ワゴンを片付ける
2. ブース内を片付ける

Chapter4：みどりの風鍼灸院の血圧・脈拍測定

1. 血圧測定の基礎知識について
2. 脈拍測定の基礎知識について
3. みどりの風鍼灸院の血圧・脈拍測定の手順について
4. 動画ビデオで血圧・脈拍測定の一連の流れを見てみよう
5. 血圧・脈拍測定の手順を練習しよう

b) 1回／月：鍼灸院院長と鍼灸学科学科長の定例ミーティングを実施。新カリキュラム対策の強化を計る

c) 臨床実習と鍼灸実技授業のリンクと技術向上を狙って、鍼灸学科前期の1年生実技試験において血圧測定の評価を行った。

(血圧測定は1年次の臨床実習プログラムである)

8) 卒後研修制度実施について

①平成30年4月から新たに4名の卒業生(平成30年3月卒業)を受け入れ最長2年間の卒後臨床研修を開始した。(1年間：1名、2年間：3名)

②平成30年4月から国民のための鍼灸医療推進機構(AcuPOPJ)が主催する鍼灸師卒後臨床研修を実施。新たに3名の鍼灸師が2年間の研修を行う。

※国民のための鍼灸医療推進機構(AcuPOPJ)は4つの団体が協力して設立した任意団体である。(①公益社団法人 日本鍼灸師会、②公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会、③公益社団法人 全日本鍼灸学会、④公益社団法人 東洋療法学校協会)

※研修生は合計8名：(内：研修2年目が4名)

9) 入学前の鍼灸受療体験の導入(3年目)

最近の鍼灸学科入学者において一度も鍼灸治療を経験したことがない学生が増加傾向にある。そこで、専門学校鍼灸学科の入学内定者に対して、入学者本人と本人の家族1名の無料体験を実施した。最終、18名(内家族6名)が受療を体験した。(前年度H29年度：20名(内家族5名))

10) 鍼灸療養費払い（鍼灸保険）について

平成30年度の1年次から3年次までの3年間に對して臨床実習の単位数は4単位に拡充した。(180時間：1単位45時間)

新たな臨床実習の教育目標の一つに、「はり師及びきゅう師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を習得し、患者への適切な対応を学ぶ」等の内容が挙げられている。そのなかで、「鍼灸療養費払い（鍼灸保険）の基本と実際」を当附属鍼灸施術所で教育・指導するという必要性がある。そこで平成30年度から新たに鍼灸療養費払いの導入を開始した。

まずは、鍼灸院鍼灸師が、療養費払いの手続きをしっかりと理解して、学生に対して“正しい鍼灸療養費制度”の教育に重きを置いて進める方向で始動した。

特に、同意書においては、患者さんがいつもお世話になっている“かかりつけの医師”に「鍼灸での治療を受けたい」と伝えて同意書を発行していただけるか、相談していただくことを大前提として進めて行くことにした。

医師に同意書を発行していただけない患者さんについては、鍼灸療養費払いの鍼灸施術は出来ない理由を説明して、自費治療をすすめることとした。

11) 平成29年度の患者動向と平成30年度患者動向についての詳細

単位：人

	平成29年度					
	全体患者(新患)	一般患者	小児患者	学生患者	卒業生患者	職員患者
4月	347(9)	192	19	89	38	9
5月	393(17)	212	18	118	39	6
6月	438(12)	219	22	149	39	9
7月	380(10)	214	24	97	35	10
8月	363(8)	214	18	87	33	11
9月	422(6)	217	27	129	39	10
小計	2343(62)	1268	128	669	223	55
10月	411(10)	200	25	140	37	9
11月	400(9)	192	23	137	40	8
12月	396(11)	189	31	137	34	5
1月	373(11)	178	28	128	36	3
2月	351(9)	169	19	119	35	9
3月	396(22)	229	36	84	34	13
小計	2327(72)	1157	162	745	216	47
計	4670(134)	2425	290	1414	439	102

	平成30年度					
	全体患者(新患)	一般患者	小児患者	学生患者	卒業生患者	職員患者
4月	409(30)	218	23	103	55	10
5月	484(21)	234	29	163	54	4
6月	465(13)	227	27	155	47	9
7月	447(9)	225	26	146	41	9
8月	395(11)	217	26	108	42	2
9月	398(10)	203	23	120	39	13
小計	2598(94)	1324	154	795	278	47
10月	492(12)	247	25	163	53	4
11月	449(10)	247	21	123	50	8
12月	404(8)	207	19	125	45	8
1月	383(18)	188	26	124	40	5
2月	436(13)	210	33	140	45	8
3月	460(36)	260	35	103	48	14
① 年間	2624(97)	1359	159	778	281	47
計	5222(191)	2688	313	1573	559	94

H30年度年間総患者数は5,222人（月平均約435人）となる。前年度H29年の4,670人と比べて552人増（月平均46人増）と患者数は増加した。

② 年間新患者数について

H30年度年間新患者数は191人（月平均約16人）となる。前年度H29年の134人と比べて57人増（月平均約4.7人増）と新患者数は増加した。

③ 年間一般患者数について

H30年度年間一般患者数は2,688人（月平均約224人）となる。前年度H29年の2,425人と比べて263人増と一般患者数は増加した。

④ 年間小児患者数について

H30年度年間小児患者数は313人（月平均約26人）となる。前年度H29年の290人と比べて23人増と小児患者数は増加した。

⑤ 年間学生患者数について

H30年度年間学生患者数は、1,573人（月平均約131人）となる。前年度H29年の1,414人と比べて159人増と学生患者数は増加した。

⑥ 年間卒業生患者数について

H30年度年間卒業生患者数は559人（月平均約46.9人）となる。前年度H29年の439人と比べて120人増と卒業生患者数は増加した。

⑦ 年間職員患者数について

H30年度年間職員患者数は94人（月平均約7.8人）となる。前年度H29年の102人と比べて8人減と職員患者数は減少した。

12) 平成 30 年度と前年度の患者数と施術現金収入動向について

	平成29年度		平成30年度	
	患者数(新患)：人	施術収入	患者数(新患)：人	施術収入
4月	347(9)	¥753,900	409(30)	¥855,500
5月	393(17)	¥833,900	484(21)	¥966,400
6月	438(12)	¥884,800	465(13)	¥923,500
7月	380(10)	¥837,400	447(9)	¥947,300
8月	363(8)	¥816,700	395(11)	¥858,800
9月	422(6)	¥864,900	398(10)	¥824,700
小計	2343(62)	¥4,991,600	2598(94)	¥5,376,200
10月	411(10)	¥807,700	492(12)	¥994,100
11月	400(9)	¥779,700	449(10)	¥974,000
12月	396(11)	¥773,300	404(8)	¥824,700
1月	373(11)	¥745,200	383(18)	¥753,700
2月	351(9)	¥681,200	436(13)	¥854,400
3月	396(22)	¥850,600	460(36)	¥972,400
小計	2327(72)	¥4,637,700	2624(97)	¥5,373,300
合計	4670(134)	¥9,629,300	5222(191)	¥10,749,500

平成 30 年度鍼灸施術現金収入は、10,749,500 円である。

前年の 9,629,300 円と比べて 1,120,200 円増と施術現金収入は増加した。

4-2. みどりの風クリニック

1. 事業進捗状況

1) みどりの風クリニック診療時間

前年度に引き続き下記の通り診療業務を実施している。

(1) 整形外科

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	
13:30~16:00	×	×	×	予約制 (再診)	×	×
16:30~19:30	●	●	×	●	●	×

(2) 内科・循環器内科・漢方内科

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	×
13:30~16:00	●	●	●	●	●	×
16:30~19:30	×	×	×	×	×	×

2) 森ノ宮医療学園の学生臨床実習実施状況

下記の通り、各学生臨床実習を実施した。

(1) 森ノ宮医療大学

・鍼灸学科 学外見学実習

平成30年4月12日～平成30年6月21日

学生30名受入

(2) 森ノ宮医療学園専門学校

・柔道整復学科 臨床実習

平成30年4月1日～平成31年3月31日まで

対象：柔道整復学科2年昼間部・夜間部、3年昼間部・夜間部の全学生

学生計197名受入

リハビリテーション科での臨床実習のみならず、他の医療職との連携を学ぶため、整形外科の診察見学、放射線科の見学、医事課の見学も行った。

下記の要項の通り、研修生を受け入れた。

(1) 卒後臨床研修の趣旨

卒後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格と医療の果たすべき

役割を認識して取り扱う外傷疾患に対して適切に対応し、後療法を行なえるよう臨床の現場で基礎から実践的な柔道整復学を学び柔道整復師としての必要な知識や能力を身に付けることを目的としている。

(2) 対象

柔道整復師

(3) 人数

2名

(4) 研修施設

森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック

(5) 主な特徴

- ・多様性と柔軟性を持った卒後研修制度
- ・医療機関との連携の必要性を学べる
- ・柔道整復師本来の業務である骨折、脱臼の整復を学べるなど

(6) 研修内容

- ・リハビリ室での見学
- ・運動器リハビリテーション、骨折、脱臼、捻挫、靭帯損傷等外傷のギプス固定、シーネ固定、テーピング固定、徒手整復を主とした研修。

(7) 研修期間

週決められた日数を3ヵ月、6ヵ月、1年間のコースを選択して行う。

(8) 卒後臨床研修コース概要

見学研修を3ヶ月とし、本校柔道整復科卒業生で6ヶ月コース、1年コースを選択したものは3ヶ月の研修後実際に患者さんを治療する臨床研修に移行していく。

外部コース（他校卒業生）は見学実習のみを予定している。

3) 外部実習生の研修受入状況

下記の通り、各部門において外部実習生の研修を行った。

(1) 整形部門

前年度に引き続き AT 長島治療院より、施術スタッフ 15 名の技能及び資質向上を目的として、毎週月曜日の夜診帯に 1 名、金曜日隔週で 1 名が 1 年間を通して見学研修として受け入れている。

4) 健康診断・予防接種等の実施状況

下記の通り、当クリニックにおいて森ノ宮医療大学の学生に対する B 型肝炎予防接種、森ノ宮医療学園専門学校の実施基準による学生健診、また、厚生労働省で定められている教職員の健康診断等を法人からの依頼により実施した。

(1) 学生健診の受入

- ・実施日時：平成 30 年 4 月 11 日

- ・実施人数：専門学校学生 427 名
- (2) 教職員定期健康診断の受入
 - ・実施日時：平成 30 年 7 月 2 日～8 月 24 日
 - ・実施人数：大学 94 名、専門学校 34 名、診療所 19 名
- (3) インフルエンザ予防接種実施
 - ・実施期間：平成 30 年 11 月 1 日～平成 30 年 12 月 28 日まで
 - ・実施人数：184 名（一般患者 71 名、学生 10 名、専門学校教職員 10 名、大学教職員 93 名）
- (4) 大学学生 B 型肝炎ワクチン予防接種
 - 1 回目 平成 30 年 6 月 11 日・14 日 352 名
 - 2 回目 平成 30 年 7 月 9 日・12 日 344 名
 - 3 回目 平成 30 年 10 月 29 日・11 月 1 日 339 名
- 5) トレーナー活動との連携強化

現在、当クリニックでは、宮崎医師と親交のある今福トレーナー、所トレーナーを通じ、下記、当該チームのメディカルチェックを含め医療面のサポート体制の保持に努めている。

 - (1) 大学野球 近畿大学 硬式野球部
 - (2) 高校野球 近畿大学附属高校 硬式野球部

その他、専門学校教員の関与する各種スポーツ部門のチーム（清風高校・中学校体操部、大阪桐蔭高校バスケットボール部、豊田自動織機陸上部など）からの依頼に対しては、臨機に対処するように努めている。

尚、参考ではあるが、当クリニックリハビリ科員の理学療法士池上は、滝川第二高校、及び、大阪工業大学の硬式野球部コーチに就任している。
- 6) 医療スタッフの学術活動状況
 - (1) 学術発表
 - ・第 36 回 近畿理学療法学会学術大会（平成 31 年 2 月 3 日）
 - 発表者：柔道整復師 大森・馬場
 - (2) 学術参加状況
 - ・第 115 回 日本内科学会（平成 30 年 4 月 13～15 日）
 - ・JCFAR 第 1 回学術集会（平成 30 年 5 月 13 日）
 - ・大阪運動器リハ研究会（平成 30 年 5 月 20 日）
 - ・関西臨床スポーツ医・科学研究会（平成 30 年 6 月 9 日）
 - ・第 10 回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（平成 30 年 6 月 14～16 日）
 - ・第 4 回福岡県診療放射線技師会学術大会（平成 30 年 6 月 16～17 日）
 - ・第 9 回日本プライマリケア連合学会（平成 30 年 6 月 16～17 日）

- ・全病理近畿地方会課題講習会（平成30年7月22日）
- ・日本肩関節学会（平成30年10月19日～20日）
- ・第27回日本柔道整復接骨医学会（平成30年11月17～18日）
- ・全国理学療法協会 近畿地方会課題講習会（平成30年12月16日）
- ・第19回スポーツフォーラム21（平成31年1月13日）
- ・第24回スポーツ傷害フォーラム（平成31年1月19日）
- ・第36回近畿理学療法学会学術大会（平成31年2月3日）
- ・近畿地域診療放射線技師会学術大会（平成31年2月17日）
- ・第41回理学療法士指導者講習会（平成31年2月17日）
- ・第83回日本循環器学会学術集会（平成30年3月29～31日）

(3) 加入団体

- ・日本医師会
- ・大阪府医師会
- ・東成医師会
- ・JOSKS
- ・日本内科医学会
- ・日本消化器関連学会
- ・日本看護協会
- ・大阪府看護協会
- ・日本診療放射線技師会
- ・大阪府放射線技師会
- ・全国病院理学療法協会
- ・日本理学療法協会
- ・日本柔道整復接骨医学会

2. 保険診療状況

1) 患者動向実績

患者数について、内科部門は現体制になってから毎年減少が続いていたが、はじめて前年度から増加（前年度比約6%増）し、整形部門も同様に増加（前年度比約3%増）したため、全体で前年度と同様の増加率（前年度比約4%増）となった。

平成30年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異) 単位:人

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	初診	再診	患者数	初診	再診	患者数	初診	再診
	237	32,755	3,977	28,778	4,224	840	3,384	28,531	3,137	25,394
計	238	31,610	3,559	28,051	3,995	747	3,248	27,615	2,812	24,803
	▲1	1,145	418	727	229	93	136	916	325	591

2) 保険診療実績

保険請求額は患者動向とは異なり、内科部門は微減（前年度比約 1%減）したが、整形部門の増加分（前年度比約 3%増）によって、全体で前年度を上回る（前年度比約 2%増）結果となった。

平成30年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:人・円

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
	237	32,755	146,382,590	4,469	4,224	19,563,920	4,632	28,531	126,818,670	4,445
計	238	31,610	143,419,460	4,537	3,995	19,800,840	4,956	27,615	123,618,620	4,477
	▲ 1	1,145	2,963,130	▲ 68	229	▲ 236,920	▲ 325	916	3,200,050	▲ 32

※平均単価は端数を四捨五入

3) 自由診療状況

健康診断・予防接種・特定健診・自賠責等の自由診療については、21,788 千円となり、前年度の 20,385 千円を約 140 万円（前年度比約 7%増）上回る結果となった。

5. 森ノ宮医療学園出版部

(1) 概況報告

2018年の実績としては、『鍼灸 Osaka』を改めて鍼灸臨床専門誌と銘打ち4号を発行した。単行本では在庫切れとなった『漢文で読む霊枢 改訂増補版』および『もっと身近にアロマセラピー 改訂増補版』を発行した。また日本の鍼灸医療業界の発展拡充を目指した新冊子『あとはとき』を2号発行した。本誌は業界で好評を得、多くの全国図書館へ寄贈することとなった。ただ、経費超過となっている収支バランスについては継続発行を目指す上での重要課題といえる。

売上に関しては、教科書販売では、専門学校においては昨年に引続き新入生へ贈呈されることから専門学校（両学科）へ販売。また大学については、書店（三省堂書店関西営業所）からの教科書販売にかかる手数料が学科・専攻増設に伴う学生数増により売上額（本体）の3%から5%にアップされ増収となった。

一方、『鍼灸 Osaka』の在校生配布が2018年度より1年生配布を卒業生配布へシフトチェンジしたことから配布数（売上）減となった。この状況は2018年度新入生の卒業時まで継続する見込みである。

以上の結果として、売上は31,902,358円、予算（40,094,000円）比で79.5%達成という結果となり、収支差額でみると、1,506,637円のマイナスとなった。

2018年7月に出版部Webサイトがリニューアルオープンした。これに伴い、書籍の注文要項も刷新し、販売促進および損金発生防止のため、書籍代金についてはクレジット決済・銀行振込・代引きによる前納とした。サイトからの注文は漸次増加してきてはいるものの、依然としてWebサイト空白期間の影響は否めず、読者へのサイトを始めとする広報活動は今後の課題である。

校友会室とのコラボレーションでは、校友会報制作およびダイレクトメール発送、学内販売や校友会員への販促キャンペーンを実施した。また2019年度実施予定のアルゼンチンからの研修生（ショートステイ）受入れについても実施期間・人数（2名）が確定し、2019年度10月実施に向け具体的にスケジュールを詰めていく予定である。

継続的課題である経営基盤の確立に向けた取組みとしては、出版部員1名増員し、2018年度は経理（販売管理）を中心に引継ぎを行った。次年度は引続き経営管理システムの確立を目指すとともに、世代交代に伴う人材確保の必要性についても検討していく。

2. 制作・出版物報告

- 1) 「鍼灸 OSAKA」の発行（129号：1200部 130号～132号：1100部 発行）

No	発行日	特 集
第129号	2018/6/2 発行	「五十肩」と「いわゆる五十肩」
第130号	2018/10/5 発行	私の得意穴
第131号	2019/1/15 発行	終末期・高齢者をみつめる緩和ケア
第132号	2019/03/26 発行	難治性腸疾患へのケア

- 2) 平成30年度発行の単行本等編集・制作

- * 「校友会報」（年1回 No.18）
- * 『漢文で読む霊枢 改訂増補版』（浦山きか著）
- 『もっと身近にアロマセラピー 改訂増補版』（森美侑紀著）

- 3) 平成31年度継続・新規制作予定の出版物

- * 『中国針灸学術史大綱』（黄龍祥著 日本語訳）：第1・2巻発行および第3巻校閲

3. 2018年度事業計画進捗状況

	2018年度計画制作物・事業	実績・進捗状況	
季刊誌	鍼灸 OSAKA129	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA130	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA131	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA132	発刊	了
書籍販売	教科書・参考書販売	予定通り完了	了
書籍販売	図書室図書販売	予定通り完了	了
単行本	中国針灸学術史大綱第1巻	2019年度に校了(1・2巻)予定	継続
単行本	はりきゅう Q&A	出版予定を凍結	—
単行本	経絡経穴取穴 Study	出版予定を凍結	—
デジタル	鍼灸 OSAKA 絶版号	発売済み	了
デジタル	鍼灸臨床ポケットガイド アプリ	2019年度内容検討	継続
制作受託	校友会報 18号	制作済み	了

4. 売上報告

● 2018年度月別売上 (単位：円)

月	売上額 (円)	31,902,358			
4月	15,736,611	8月	786,103	12月	500,983
5月	1,936,726	9月	1,249,214	1月	2,567,336
6月	391,272	10月	4,402,485	2月	458,403
7月	1,363,387	11月	415,129	3月	2,094,709

● 商品別売上

(単位：円)

商品分類	比率 (%)	売上高 (2018年度)	29年度比 (%)	売上高 (2017年度)
単行本	12.7	4,036,353	14.9	5,017,402
鍼灸 OSAKA	19.3	6,142,713	23.6	7,920,980
教科書 (手数料含む)	53.5	17,071,925	39.9	13,474,186
図書室図書	2.0	637,329	0	0
制作費・編集費	5.9	1,874,339	15.7	5,248,392
あとはとき	1.3	401,225	—	—
抜刷	0.5	143,758	0.3	106,320
広告料	2.1	658,720	0.8	268,800
送料	0.2	52,327	2.6	889,659
他社出版物	0.9	285,095	0.3	101,022
その他	1.9	598,574	1.9	661,429
	100	31,902,358	100	33,688,190

● 鍼灸 OSAKA 売上

バックナンバー (BN)	2018 年度 売上件数	金額 (円)	2017 年度 売上件数	金額 (円)
鍼灸 O S A K A	3460	6,142,713	4730	7,920,980
(セト124号まで)	(0)	(0)	(2)	(418,205)
計	3460	6,142,713	4730	7,920,980
前受金 (売上振替未分)	289	530,315	307	563,345
定期購読数	2018 年度	2017 年度		
新規定期購読	18	12		
学生定期購読	325	508		
定期購読 (継続)	204	217		
盲学校等学校定期購読	33	33		
計		770		

● 取引先別売上げとその比率

顧客	売上	比率
書店	2,320,726	7.3
学生	214,076	0.7
森ノ宮医療学園関係	19,287,754	60.5
取次	2,428,838	7.6
個人	2,574,338	8.1
校友会	2,462,593	7.7
業者	814,271	2.6
ネットショップ	1,095,612	3.4
他校 (盲学校含む)	414,930	1.3
その他	289,220	0.9
計	31,902,358	100

● 単行本売上

刊	タイトル	売上数	売上額 (円)	売上比率 (%)
既刊	ツボ暗記カード	416	1,091,239	24.7
既刊	漢文で読む霊枢 改訂増補版	198	804,445	18.2
既刊	ツボ暗記カードアプリ	177	787,400	17.8
既刊	臓腑経絡学	159	446,401	10.1
既刊	柔道整復理論サブノート	134	394,196	8.9
既刊	ポケット鍼灸臨床ガイド	131	286,323	6.5
既刊	健康で知的なからだをつくる 51 のレッスン	71	139,012	3.1
既刊	インテリジェントボディ CD	68	120,606	2.7
既刊	このツボが効く-先人に学ぶ 75 名穴	44	102,880	2.3
既刊	もっと身近にアロマセラピー	78	91,140	2.1
既刊	生きているとは 講演録	142	72,875	1.6

売上額 5 万以上を記載 *比率は単行本売上に対するもの

5. 営業活動

● 主な展示販売

(単位：円)

展示会名	場所	販売期間	主担当	売上	出展料
第 67 回全日本鍼灸学会	大阪	2018 年 6 月 2・3 日	廣長・北村	57,100	54,000
第 46 回日本伝統鍼灸学会	大阪	2018 年 11 月 24・25 日	廣長・北村	102,620	30,000
第 16 回大阪漢方鍼灸医学セミナー	大阪	2019 年 3 月 24 日	廣長	11,700	0
第 69 回日本東洋医学会	大阪	2018 年 6 月 8～10 日	廣長・紀野	76,300	32,400
学内販売	大阪	2018 年 11 月 24・25 日	北村・廣長・房前・紀野	36,300	0
				284,020	116,400

● DM によるキャンペーン

校友会会員対象の『鍼灸 OSAKA』バックナンバー割引価格販売キャンペーンを期間限定で 1 回 (3 月) 行った。

● 学園内新卒生への『鍼灸 Osaka』継続購読キャンペーン

卒業生への雑誌送付時に、新卒生限定の割引価格での購読案内チラシを同封し、2名注文があった。

● 店訪問・営業

学会出展時に開催地を中心として、時間的余裕に応じてその近郊書店を訪問し、出版部発行書籍のPRを行っている。また、新刊発行予定についても、取次書店担当者はもちろん、各小売書店の医学書担当者と対面して事前PRすることで、発行時に委託等注文がスムーズ得られる。

[取扱書店一覧]

WEB 書店	Amazon Fujisan (鍼灸 OSAKA のみ) 紀伊国屋 BookWEB セブンネットショッピング ヨドバシカメラ メテオメディカルブックセンター YAHOO! ブックス など	
店舗		
北海道	MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店 蔦屋書店函館店 丸善札幌南一条店 ジュンク堂書店旭川店	岐阜県 喜久屋書店・大垣店
岩手県	MORIOKATUTAYA	三重県 ワニコ書店
宮城県	アイエ医書センター 丸善・仙台アエル店	京都府 紀伊國屋書店・京都御池店 ジュンク堂書店・京都店 ジュンク堂書店・京都 BAL 店
福島県	八重洲ブックセンター・郡山店	大阪府 アバンティブックセンター
栃木県	大学書房メビウス	紀伊國屋書店・梅田本店
群馬県	喜久屋書店・太田店	紀伊國屋書店・本町店
千葉県	三省堂書店・そごう千葉店 丸善・津田沼店 宮脇書店・印西牧の原店	ジュンク堂書店・大阪本店 ジュンク堂書店・難波店 関西医書
東京都	三省堂書店・神保町本店 文進堂 東方書店 亜東書店 いざわ書林 燎原書店	丸善・なんば OCAT 店 神陵文庫・大阪支店 田村書店・千里中央店 兵庫県 神陵文庫・本社 ジュンク堂書店・三宮店 ジュンク堂書店・三宮駅前店 ジュンク堂書店・姫路駅前店
	新樹社書林 丸善・本店 八重洲ブックセンター・本店	島根県 島根井上書店 岡山県 泰山堂書店 泰山堂書店・鹿田店 丸善・シンフォニービル店 喜久屋書店・倉敷店
	旭屋書店・池袋店	広島県 井上書店 井上広文館 フタバ図書・TERA 医書
	紀伊國屋書店・本店 紀伊國屋書店・新宿南口店 ジュンク堂書店・池袋店 たにぐち書店	徳島県 久米書店
	オリオン書房・ノルテ店	久米書店・医大前店
神奈川県	有隣堂・医学書センター 有隣堂・川崎 BE 店	香川県 宮脇書店・本店 宮脇書店カルチャースペース

あおい書店横浜店
ACADEMIA・港北店
ACADEMIA・ちはら台店
長野県 明倫堂書店
新潟県 考古堂書店
富山県 文苑堂書店・福田本店
石川県 前田書店
静岡県 丸善・新静岡店
ガリバー
愛知県 大竹書店
丸善・名古屋栄店
三省堂書店・高島屋店

宮脇書店・南本店
愛媛県 丸三書店
福岡県 丸善・福岡ビル店
紀伊國屋書店・福岡本店
紀伊國屋書店・福岡天神店
ジュンク堂書店・福岡店
喜久屋書店・小倉店
長崎県 紀伊國屋書店・長崎店
大分県 ジュンク堂書店・大分店
鹿児島 ジュンク堂書店・鹿児島店
沖縄県 考文堂
韓国 釜山 栄光図書

6. 京都施術所

(1) 人員体制

常 勤：柔道整復師 2 名、鍼灸師 1 名、鍼灸師兼 AT1 名 計 4 名

非常勤：鍼灸師 兼 柔道整復師 兼 AT 1 名 (週 1, 2 回)

研修生：柔道整復師 1 名 (医療機器メーカー社員、週 1 回)

受 付：3 名 (交替制 1 名常駐)

- ・非常勤スタッフは海外でのトレーナー活動の豊富な経験があることや京都サングの元トレーナーであったことから、経験で得た知見等を他のスタッフが共有することができた。また現在のトレーナー活動を通じて、患者数も増えた。
- ・医療機器メーカー社員を研修生として受け入れることで、物療機器の取り扱いについてスタッフ全員が機器取り扱いの技術の向上につながった。

(2) 治療院業務日数。

①診療日数 227.5 日 (うち鍼灸治療日は 169.5 日)

- ・H31 年 3 月より鍼灸師 1 名常駐する体制とした。
 - ・診療日時 9 : 00 ~ 12 : 30 / 16 : 00 ~ 20 : 30 月 ~ 金
 - ・H31 年 1 月より休診日の水曜を診療日とし、休診日を土曜・日曜に変更し、土曜・日曜の院外活動 (トレーナー活動等) を行いやすいようにした。
- ※曜日変更による患者数減少の影響は現時点ではない。

②休診日数 137.5 日 定休日以外に台風、トレーナー活動、勉強会、定期清掃

③運営ミーティング：月 1 回企画 G と合同の定例会議 (13 : 30 ~) を行い、情報共有及び PDCA を行っている。

(3) 院外活動

①バニーズ京都 SC トレーナー活動 毎週木活動及びホームゲームサポート
なでしこリーグ 2 部リーグ所属

②京都精華高校女子サッカー 毎週木・金及び試合帯同

③第 27 回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 出場
京都精華高校女子サッカー部に帯同 H31/1/2

④京都市スポーツ協会主催 「歩きの基本講座」講師 (井上) 一般参加者 約 70 名 H31/2/27

⑤平安楽市治療ブース出展 (治療院案内及び小児鍼普及活動) H30/7/14. 9/8

⑥踏水会及び京都文教高校・中学水泳部 メディカルチェック H30/10/26

⑦京都市吉田児童館 小児鍼体験講座開催 H30/11/6

⑧京都市大宮西野山児童館 小児鍼体験講座開催 H31/3/26

⑨京都大学男子ラクロス部 インディバ体験会実施 H30/9/20

⑩京都大学女子バスケット部 インディバ体験会実施 H30/9/22

⑪認知症サポーター講習会受講 H30/6/28

(4) 広報活動

- ①前項の院外活動を通じて「バニーズ京都 SC」、「京都精華高校女子サッカー部」、「京都精華中学男女サッカー部」では外部治療院として公認され、スポーツ外傷の学生が来院。
- ②京都大学女子バスケ、ラクロス部に対して治療院の見学会を実施。H31/3
- ③LINE@に登録し、院内案内のほか予約管理で活用。現在 150 名程度が登録。 H30/11/6
- ④京都市はり・きゅう・マッサージ指定施術所登録 H30/8/30
- ⑤きょうと子育て応援パスポート協賛店登録 H31/1/8
- ⑥「高齢者にやさしい店」登録 H31/3/6
- ⑦KT テープマスター登録治療院
- ⑧医療機器メーカーより提供された FC バルセロナサイン入りユニフォームを院内に掲示
- ⑨京都市スポーツ協会の賛助会員となり、協会の HP・月間発行物に本院名を掲載 H30/10/1
- ⑩ブラックボードを設置し治療院イベント、東洋医学情報を随時案内

(5) 臨床実習生の受け入れ

- ・平成 30 年 5 月 15 日～6 月 12 日間の毎週火曜日に森ノ宮医療大学鍼灸学科 4 年 1 名の学外見学実習（計 5 回）を実施した。
- ・実習内容は、清掃等の開院準備、患者情報の把握、施術見学と治療方針の説明を通じて一般的な「鍼灸整骨院」業を見学体験してもらう事としている。
そのため、鍼灸施術だけでなく、接骨の施術、物療機器を使用した施術などの見学を行った。
また、初日には、各種物療機器や超音波エコーの説明を行い、実習日ごとに各種物療機器を体験する時間を設けた。
- ・初めての実習生受け入れであったが、学生からは、「実習を通じて、患者との信頼関係の重要性を改めて意識した」との回答を得た。

Ⅲ. 財務の概要

大学の臨床検査学科・作業療法学科、臨床工学科の学生増はあったが、クリニック立体駐車場の除却処理、専門学校の新設、人件費増により経常収支差額は△20,600千円のマイナスとなり、施設寄付金等や建物処分差額などの特別収支を差引した結果、基本金繰入前当年度収支差額は43,897千円のマイナスとなった。

・平成30年度事業活動収支計算書概要

(円)

項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	算式
教育事業活動収入	3,358,303,570	3,053,116,762	2,902,086,895	2,739,177,618	-
教育事業活動支出	3,372,856,801	3,022,470,024	2,915,772,498	2,462,650,960	-
教育活動収支差額	△14,553,231	30,646,738	△13,685,603	276,526,658	1-2
教育活動外収入	23,346	23,689	3,149,521	2,113,923	-
教育活動外支出	6,069,045	6,368,363	2,206,506	0	-
経常収支差額	△20,599,930	24,302,064	△12,738,588	278,640,581	3+4-5
特別収支差額(集計)	△23,297,819	47,784,587	44,954,414	△1,671,574	-
組入前当年度収支差額	△43,897,749	72,086,651	32,215,826	276,969,007	6+7
基本金組入額	△201,843,199	△796,408,050	△614,168,081	△2,878,085,848	-
当年度収支差額	△245,740,948	△724,321,399	△581,952,255	△2,601,116,841	8+9
前年度繰越収入差額	△2,350,467,039	△1,626,145,640	△1,044,193,385	1,556,923,456	-
翌年度繰越収支差額	△2,578,623,942	△2,350,467,039	△1,626,145,640	△1,044,193,385	10+11

・正味資産の推移

(円)

	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
正味資産	12,371,604,875 (内現金預金総額 2,906,878,691)	12,415,502,624 (内現金預金産総額 2,771,591,140)	12,343,415,973 (内現金預金総額 2,723,025,512)	12,311,200,147 (内現金預金総額 3,204,480,205)
資産増加額	△43,897,749	72,086,651	32,215,826	276,969,007

・主な財務比率

項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	算式
経常収支差額比率	-0.6%	-0.8%	-0.4%	10.2%	経常収支差額/ 経常収入
人件費比率	55.7%	56.8%	56.6%	52.8%	人件費/ 経常収入
教育研究経費比率	30.7%	28.6%	29.4%	23.9%	教育経費/ 経常収入
管理経費比率	13.9%	13.6%	14.4%	13.1%	管理経費/ 経常収入